

千葉市幼保小連携・接続実態調査 結果報告書

平成 29 年 3 月

千葉市幼保小連携・接続検討会議

<調査の概要>

1 調査の目的

千葉市の幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携・接続に関する現状を把握し、今後の具体的方策の検討の基礎資料とする。

2 調査対象

(1) 幼保調査

千葉市内の全私立幼稚園・保育所・認定こども園

	園（施設）数 ^{※2}	備考
私立幼稚園（認定こども園） ^{※1}	89（4）	廃園予定の園等を除く。
民間保育園（認定こども園） ^{※1}	94（4）	
公立保育所（認定こども園） ^{※1}	59（2）	
計	242（10）	

※1 私立幼稚園から移行した園（民間保育園と一体化したものを含む）は「私立幼稚園」、民間保育園から移行した園及び地方裁量型認定こども園は「民間保育園」、公立保育所から移行した園は「公立保育所」に計上。

※2 カッコ内は認定こども園数（内数）

(2) 小学校調査

千葉市内の全市立小学校（112校）

3 実施期間

(1) 幼保調査	平成28年7月～8月
(2) 小学校向け調査	平成28年9月

4 主な調査項目

- I 子どもを中心とした交流活動について
- II 要録の作成・活用について
- III 教職員同士の連携活動について
- IV 幼児期と小学校との円滑な接続について
- V 家庭や保護者への支援・啓発について

5 調査票の配布・回収方法

電子メール又は書面にて配布・回収

6 調査票の回収状況

	配布数	回収数	回収率
(1) 幼保調査	242	242	100.0%
(2) 小学校調査	112	112	100.0%

＜基礎データ＞

1 幼稚園・保育所・認定こども園の設置からの年数（29.3.31時点）

単位：年

	最短	最長	平均
幼保全体	1	88	34.8
私立幼稚園（認定こども園）	10	88	47.1
民間保育園（認定こども園）	1	66	15.3
公立保育所（認定こども園）	36	68	47.4

2 幼稚園・保育所・認定こども園及び小学校の規模（28.5.1時点）

単位：人

		最小	最大	平均
幼保全体	3～5歳児数	2	376	92.8
	年長児数	1	137	32.0
私立幼稚園（認定こども園）	3～5歳児数	18	376	156.7
	年長児数	5	137	55.1
民間保育園（認定こども園）	3～5歳児数	2	98	43.8
	年長児数	1	33	14.2
公立保育所（認定こども園）	3～5歳児数	14	119	74.5
	年長児数	2	46	25.7
小学校	1年生数	4	184	69.3

3 卒園児が入学した小学校数／入学児童が卒園した幼稚園・保育所・認定こども園数（28.4時点）

単位：校／園

	最少	最多	平均
幼保全体	0	32	8.1
私立幼稚園（認定こども園）	3	32	11.9
民間保育園（認定こども園）	0	16	4.9
公立保育所（認定こども園）	2	14	7.4
小学校	3	38	15.8

＜設問一覧＞

I 子どもを中心とした交流活動について

幼保調査	小学校調査
問 1-1 平成 27 年度、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施しましたか。【P5】	問 1-1 平成 27 年度、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施しましたか。【P25】
問 1-2 今後、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施したいと考えますか。【P6】	問 1-2 今後、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施したいと考えますか。【P26】
問 1-3 交流活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。【P7～8】	問 1-3 交流活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。【P27】
問 1-4 子どもを中心とした交流活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。【P9～10】	問 1-4 子どもを中心とした交流活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。【P28】
問 1-5 子どもを中心とした交流活動を中心となって行う担当者はどなたですか。【P11】	問 1-5 子どもを中心とした交流活動を中心となって行う担当者はどなたですか。【P28】

II 要録について

幼保調査	小学校調査
問 2-1 平成 27 年度、小学校に要録を送付しましたか。【P12】	問 2-1 平成 27 年度、全ての幼稚園・保育所・認定こども園から要録の送付を受けましたか。【P29】
問 2-2 要録の作成に関して課題と感じていることは何ですか。【P12】	問 2-2 平成 27 年度に送付を受けた要録を、誰が読みましたか。【P29】
	問 2-3 要録をどのように活用していますか。【P30】

III 教職員同士の連携活動について

幼保調査	小学校調査
問 3-1 平成 27 年度、次のような、小学校との教職員同士の連携活動を実施しましたか。【P13】	問 3-1 平成 27 年度、次のような、幼稚園・保育所・認定こども園との教職員同士の連携活動を実施しましたか。【P31】
問 3-2 今後、次のような、小学校の教職員同士の連携活動を実施したいと考えますか。【P14】	問 3-2 今後、次のような、幼稚園・保育所・認定こども園との教職員同士の連携活動を実施したいと考えますか。【P32】
問 3-3 教職員同士の連携活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。【P15～16】	問 3-3 教職員同士の連携活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。【P33】
問 3-4 教職員同士の連携活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。【P17～18】	問 3-4 教職員同士の連携活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。【P34】
問 3-5 教職員同士の連携活動を中心となって行う担当者はどなたですか。【P19】	問 3-5 教職員同士の連携活動を中心となって行う担当者はどなたですか。【P35】

IV 幼保から小学校への接続に向けた取組みについて

幼保調査	小学校調査
問 4-1 特に年長児の教育・保育課程やカリキュラムの編成・実践において、幼児期の育ちや学びを小学校入学後の生活や学習につなげることを、どの程度意識していますか。【P20】	問 4-1 平成 28 年 4 月時点で、1 年生の学年全体として、入学した児童の様子で課題と感じたことはありますか。【P36】
問 4-2 幼児期における育ちや学びを小学校入学後の生活や学習につなげることを意識して具体的に実践している取組みがあれば、簡潔にご記入ください。【P20】	問 4-2 特に 1 年生の前半に、幼児期の教育からの接続を円滑にするために意識的に実践した取組みはありますか。【P37】
問 4-3 アプローチカリキュラムについて、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。【P21】	問 4-3 アプローチカリキュラムについて、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。【P38】
問 4-3 スタートカリキュラムについて、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。【P22】	

V 小学校入学を控えた園児の家庭や保護者への支援や啓発について

幼保調査	小学校調査
問 5-1 年長児の保護者に対し、小学校入学に対する不安を和らげたり、家庭での入学に向けた準備を支援するためにやっていることはありますか。【P23】	問 5-1 年長児の保護者に対し、小学校入学に対する不安を和らげたり、家庭での入学に向けた準備を支援するためにやっていることはありますか。【P39】

＜調査結果（幼保調査）＞

【幼保調査における凡例について】

「全幼保」… 私立幼稚園（認定こども園）、民間保育園（認定こども園）及び公立保育所（認定こども園）

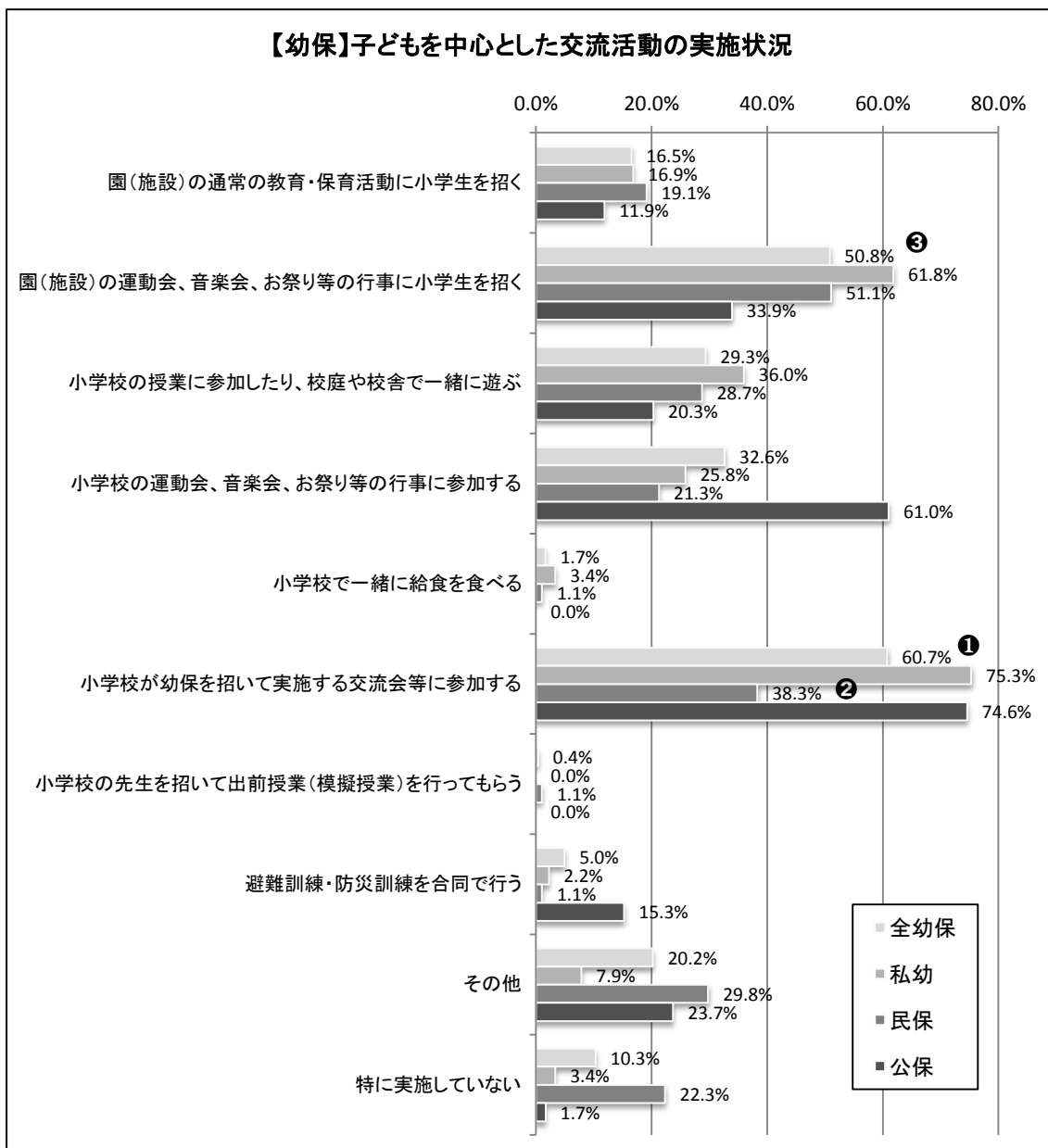
「私幼」… 私立幼稚園（認定こども園）

「民保」… 民間保育園（認定こども園）

「公保」… 公立保育所（認定こども園）

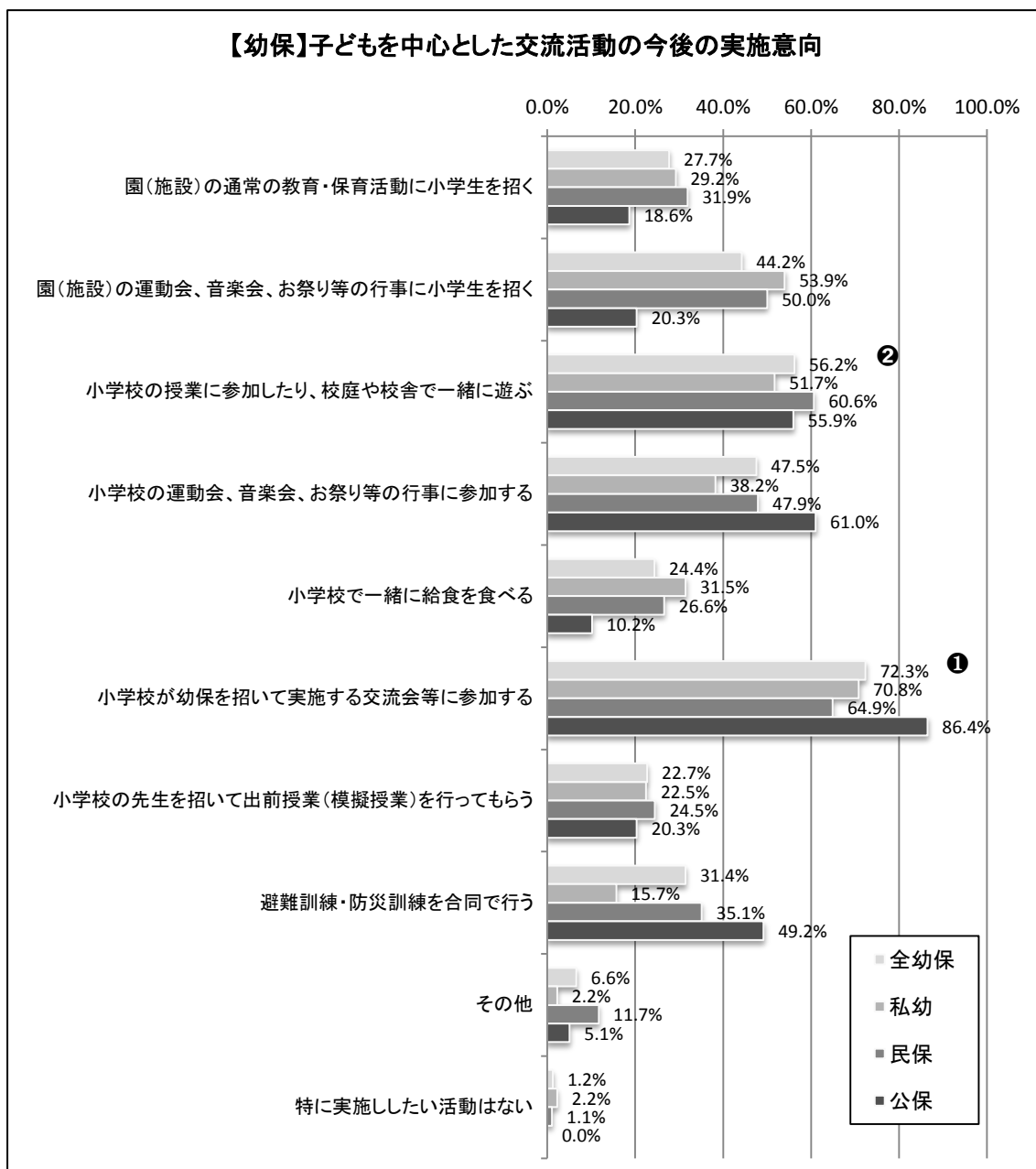
I 子どもを中心とした交流活動について

問 1-1 平成 27 年度、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施しましたか。(複数回答)



- ・ 全幼保の 60.7%が、小学校が幼保を招いて実施する交流会等に参加している。⇒①
- ・ 民保については、私幼・公保と比較して参加割合が低くなっており、設置からの年数が若い園が小学校との関係を築けていないことが主な要因と考えられる。⇒②
- ・ 全幼保の 50.8%が、運動会、音楽会、お祭り等の行事に小学生を招いている。⇒③

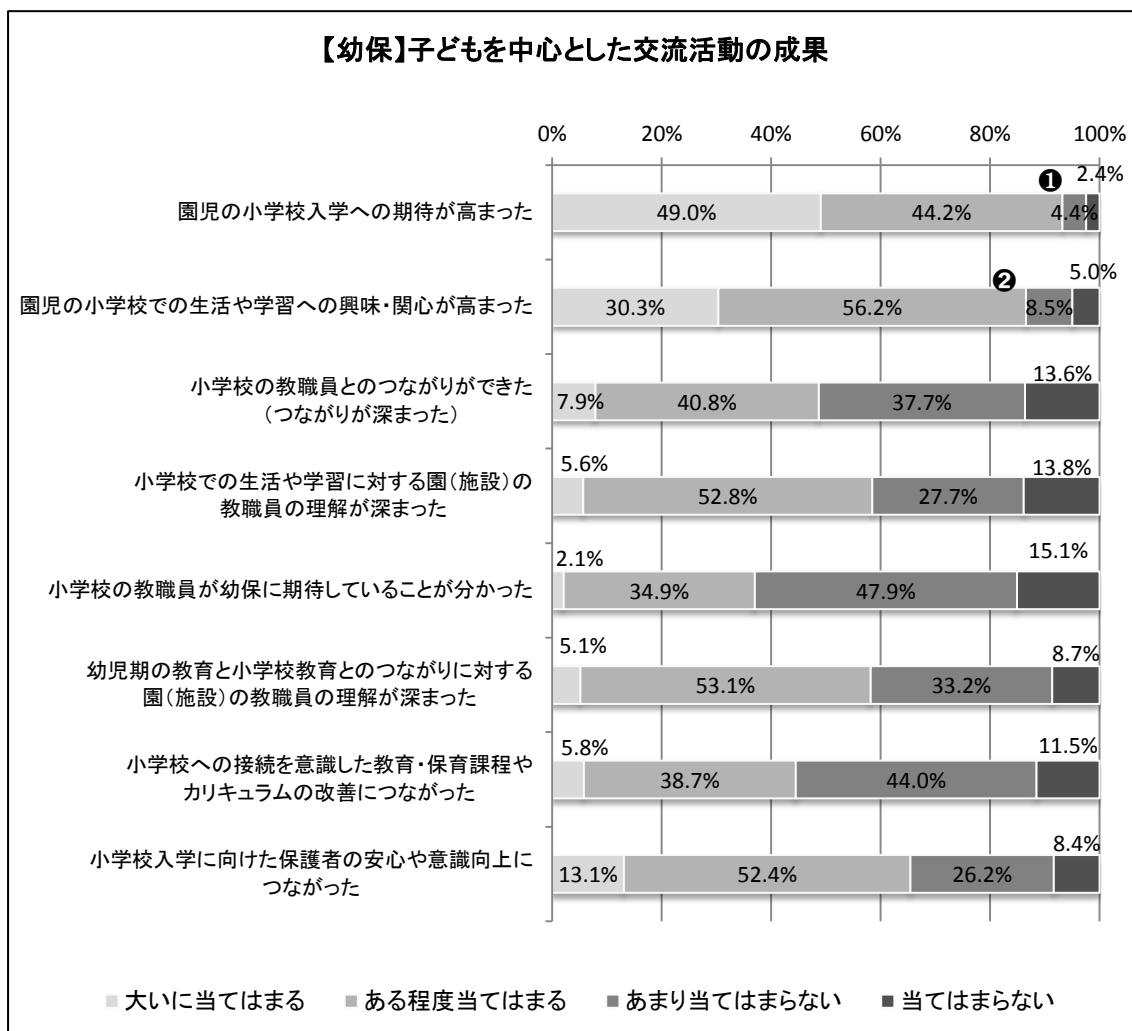
問 1-2 今後、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施したいと考えますか。(複数回答)



- ・現に広く実施されている、小学校が幼保を招いて実施する交流会等への参加は、全幼保で 72.3% と、今後のニーズも高い。⇒①
- ・全幼保の 56.2%が、「小学校の授業に参加したり、校庭や校舎で一緒に遊ぶ」交流活動を希望している。(27年度に実施したのは29%) ⇒②

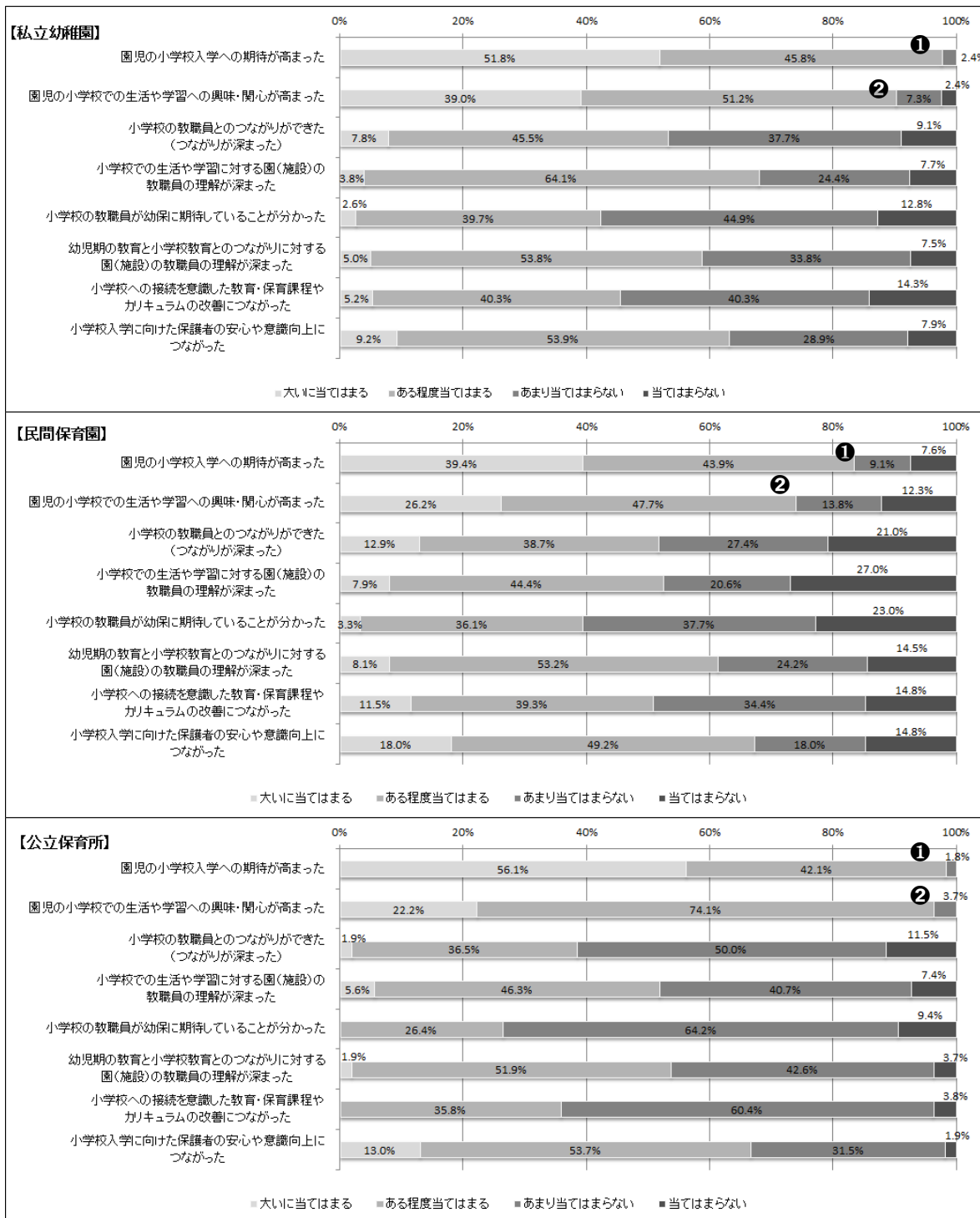
問 1-3 交流活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。(複数回答) (問 1-1 で 1~9 に○をつけた園(施設)のみ)

[幼保全体]



・「大いに当てはまる」「ある程度当てはまる」を合わせると、交流を実施した園(施設)の 93.2% が「園児の小学校入学への期待が高まった」と、86.5%が「園児の小学校での生活や学習への興味・関心が高まった」と回答している。⇒①、②

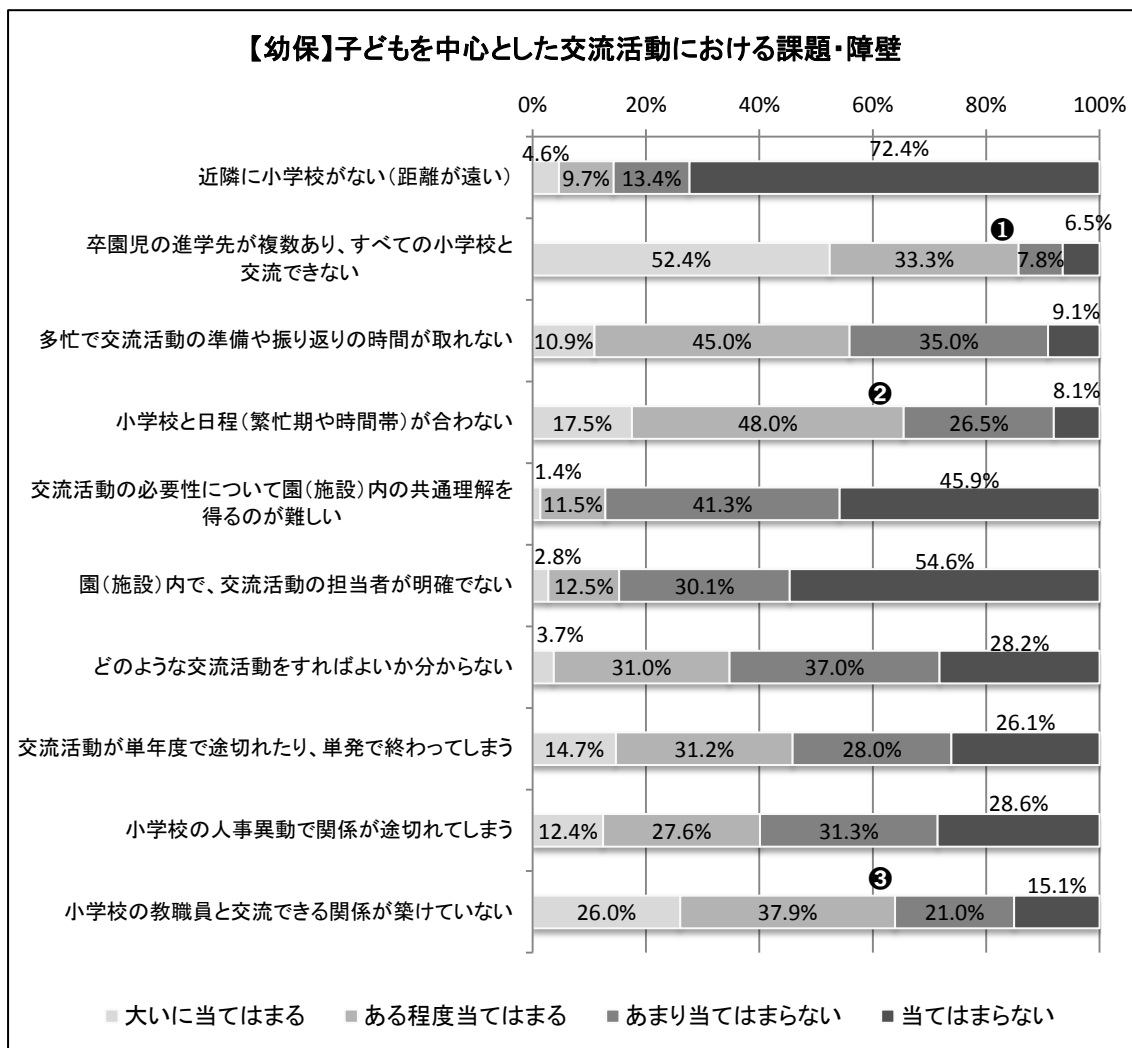
[種別ごと]



・私幼、民保、公保の種別を問わず、「園児の小学校入学への期待が高まった」、「園児の小学校での生活や学習への興味・関心が高まった」の割合が高い。⇒①、②

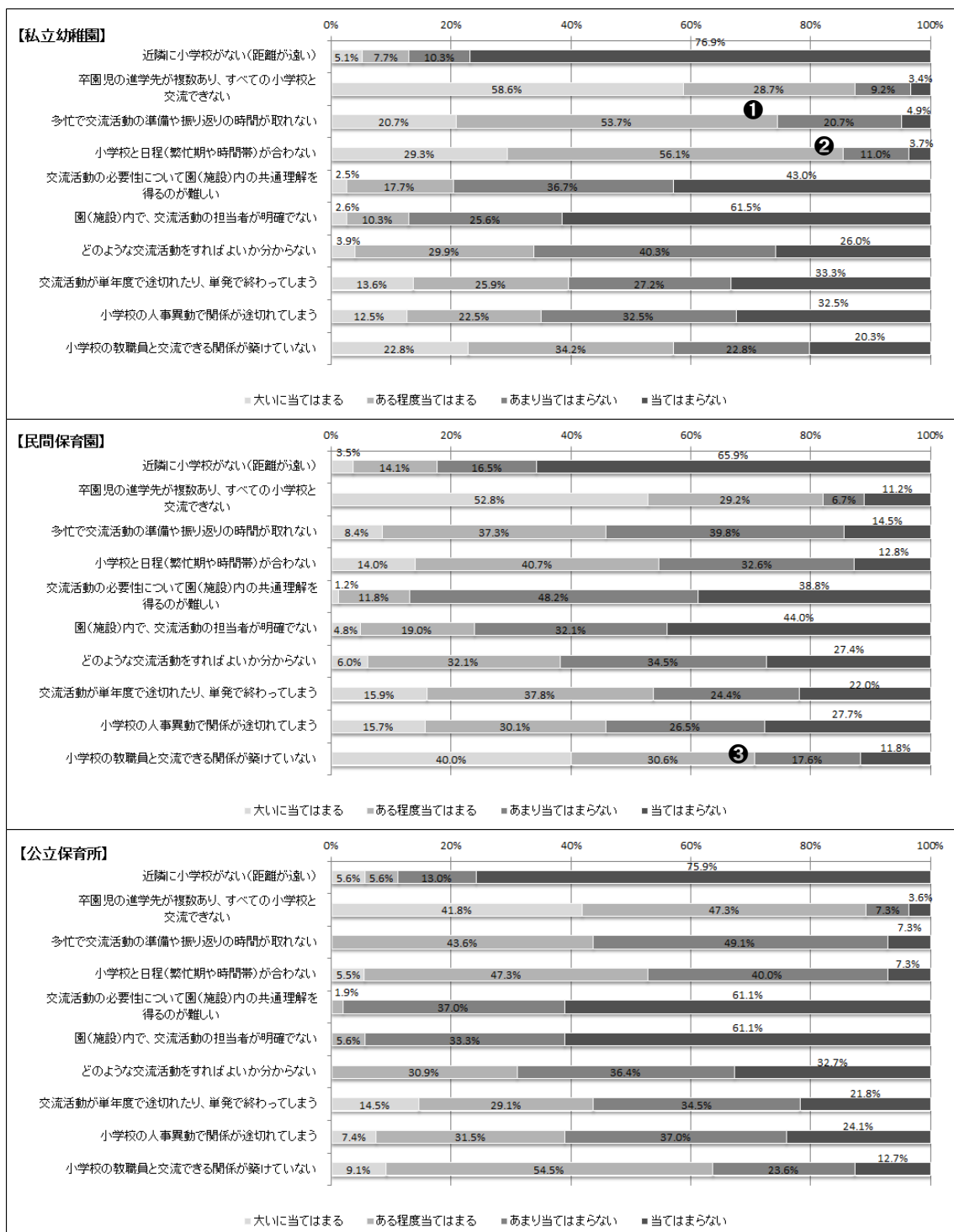
問 1-4 子どもを中心とした交流活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。(複数回答)

[幼保全体]



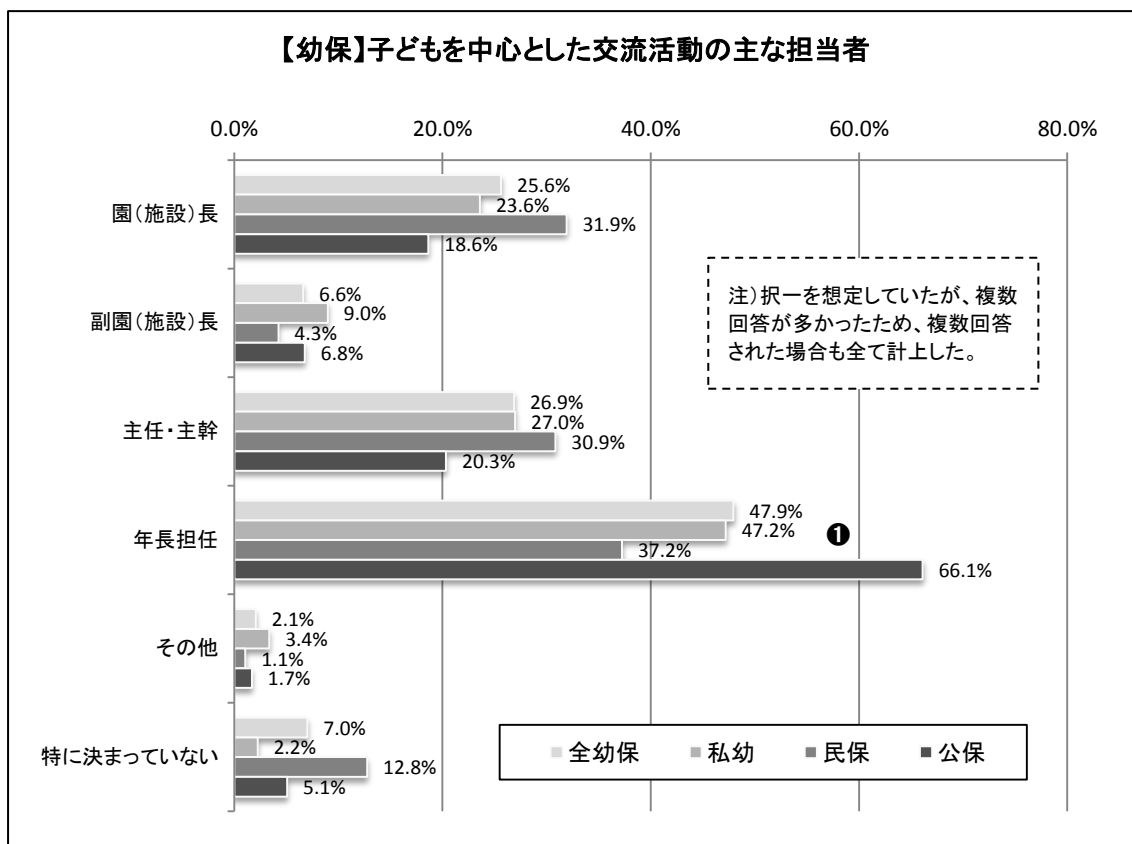
・「大いに当てはまる」「ある程度当てはまる」を合わせると、全幼保の 85.7%が、「卒園児の進学先が複数あり、すべての小学校と交流できない」と、65.5%が「小学校と日程(繁忙期や時間帯)が合わない」と、63.9%が「小学校の教職員と交流できる関係が築けていない」と回答している。⇒①、②、③

[種別ごと]



- ・私幼は、民保・公保と比べて、「多忙で交流活動の準備や振り回りの時間が取れない」、「小学校と日程(繁忙期や時間帯)が合わない」の割合が高い。⇒①、②
- ・民保は、私幼・公保と比べて、「小学校の教職員と交流できる関係が築けていない」の割合が高い。⇒③

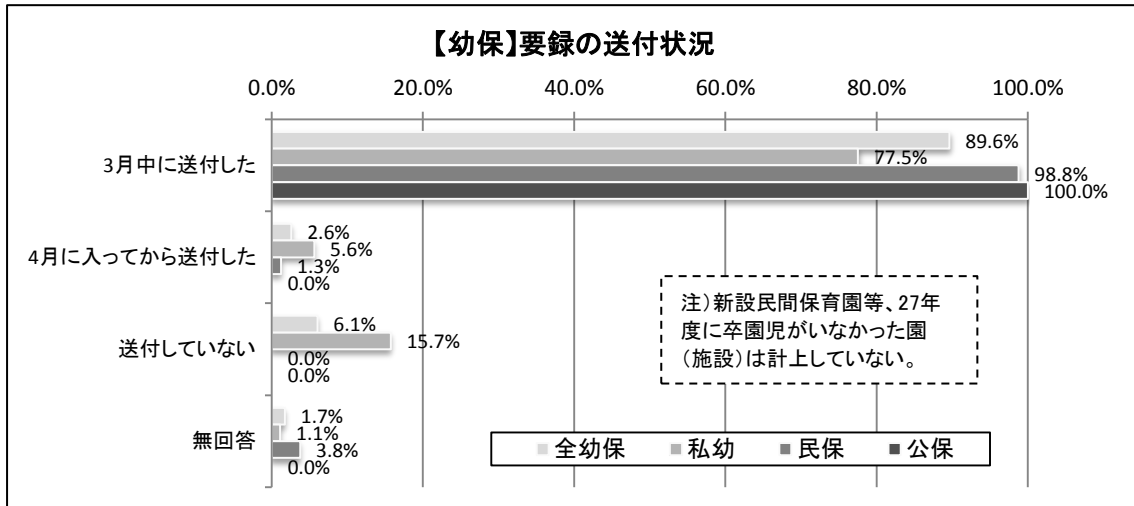
問 1-5 子どもを中心とした交流活動を中心となって行う担当者はどなたですか。



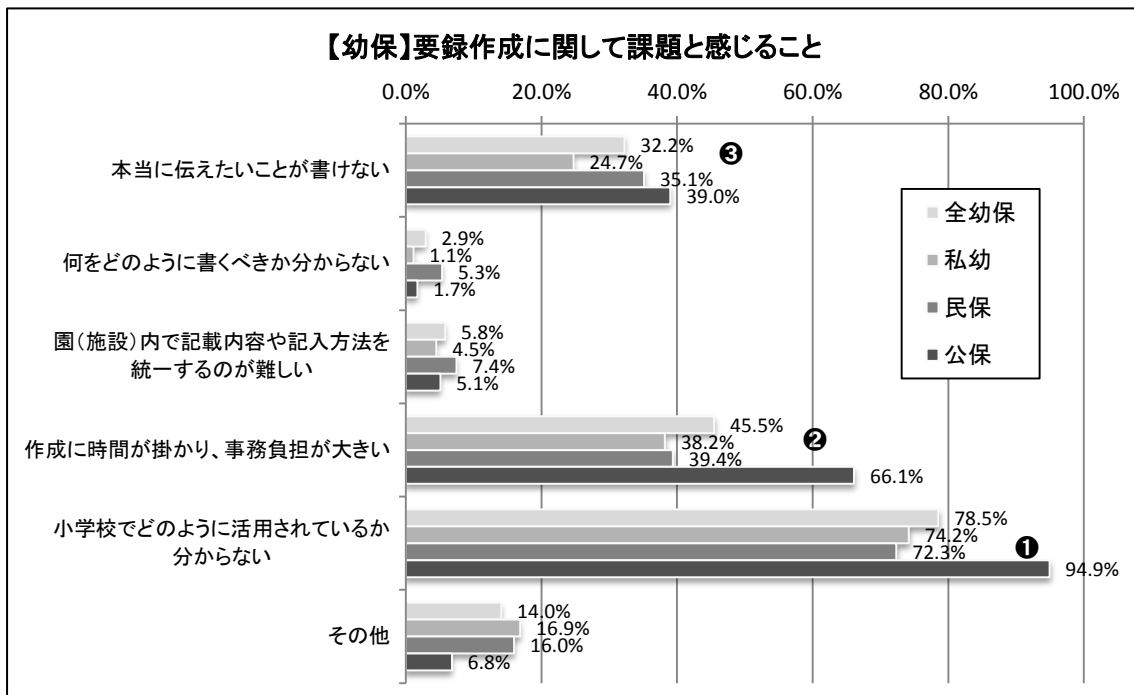
・全幼保において、年長担任が交流活動を担当している園(施設)の割合が47.9%と最も高く、特に公保は66.1%と、私幼・民保と比べて高くなっている。⇒①

II 要録について

問 2-1 平成 27 年度、小学校に要録（幼稚園児童要録、保育所児童保育要録又は認定こども園こども要録）を送付しましたか。



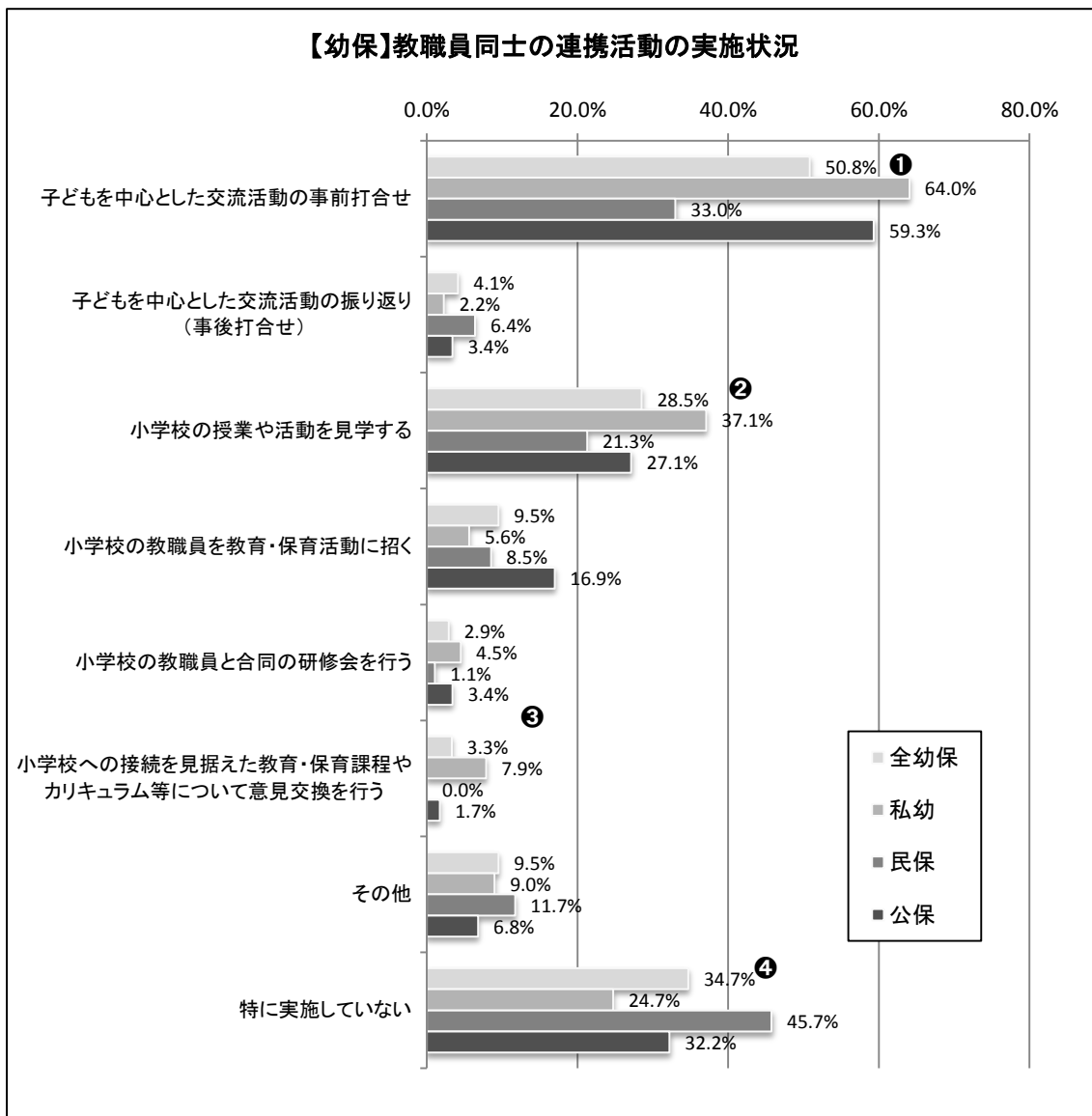
問 2-2 要録の作成に関して課題と感じていることは何ですか。(複数回答)



- ・全幼保において、「小学校でどのように活用されているか分からない」の割合が 78.5%と最も高い。⇒①
- ・事務負担が大きいことや、本当に伝えたいことが書けないことも課題と感ずている園(施設)も多い。⇒②、③

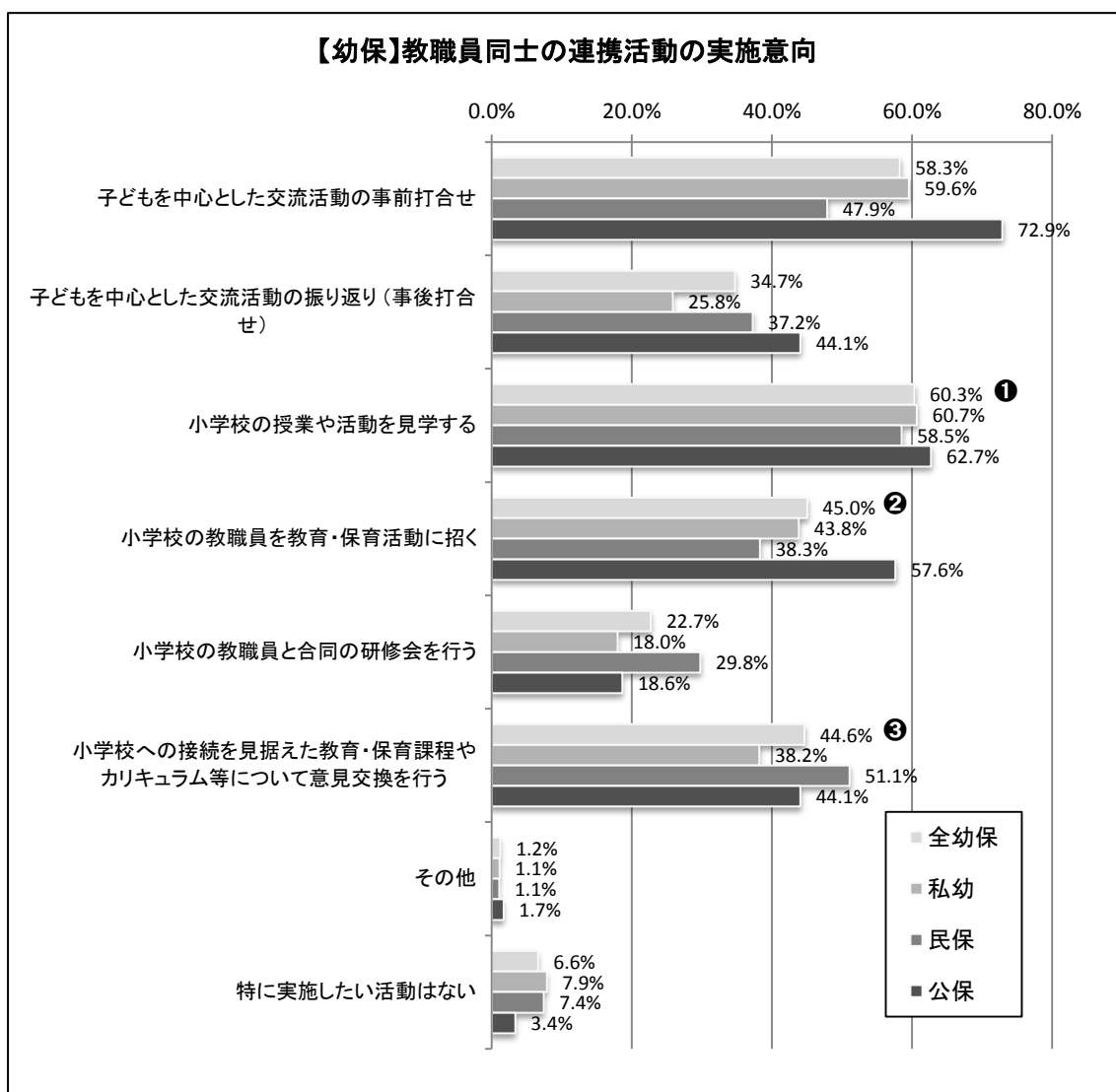
Ⅲ 教職員同士の連携活動について

問 3-1 平成 27 年度、次のような、小学校との教職員同士の連携活動を実施しましたか。
(複数回答)



- ・全幼保の 50.8%で、子どもを中心とした交流活動の事前打合せが実施されている。⇒①
- ・全幼保の 28.5%が、小学校の授業や活動の見学を実施している。⇒②
- ・小学校教職員との合同研修や、小学校への接続を見据えた教育・保育課程やカリキュラム等についての意見交換を実施している園（施設）は少なく、全幼保の 34.7%が教職員同士の連携活動を「特に実施していない」と回答している。⇒③、④

問 3-2 今後、次のような、小学校の教職員同士の連携活動を実施したいと考えますか。(複数回答)



・ 現に実施されていない活動も含め、全般的に教職員同士の連携活動に対するニーズは高い。

「小学校の授業や活動を見学する」

(全幼保) H27 実施状況 : 28.5% → 今後の実施意向 : 60.3% ⇒ ①

「小学校の教職員を教育・保育活動に招く」

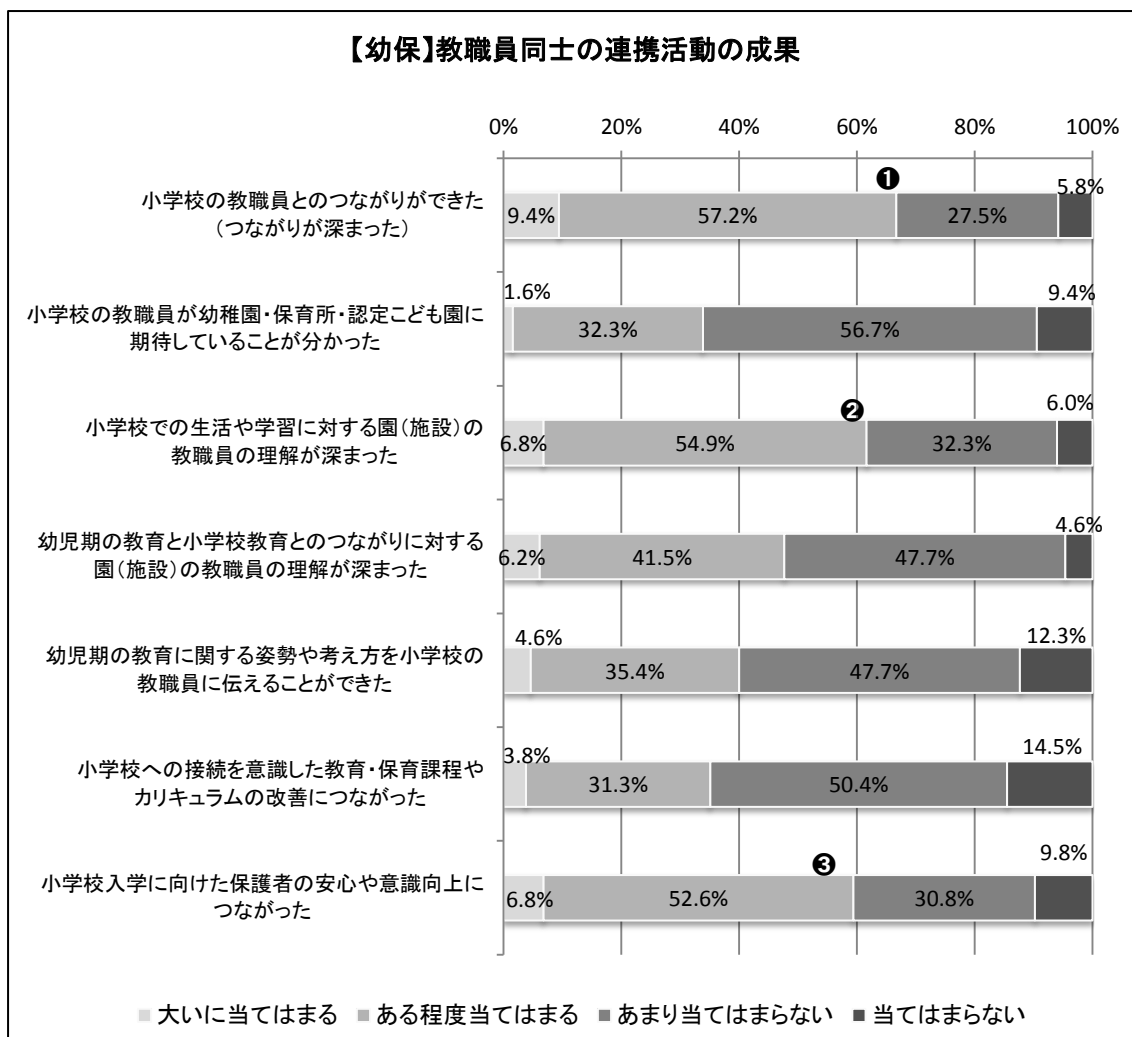
(全幼保) H27 実施状況 : 9.5% → 今後の実施意向 : 45.0% ⇒ ②

「小学校への接続を見据えた教育・保育課程やカリキュラム等についての意見交換を行う」

(全幼保) H27 実施状況 : 3.3% → 今後の実施意向 : 44.6% ⇒ ③

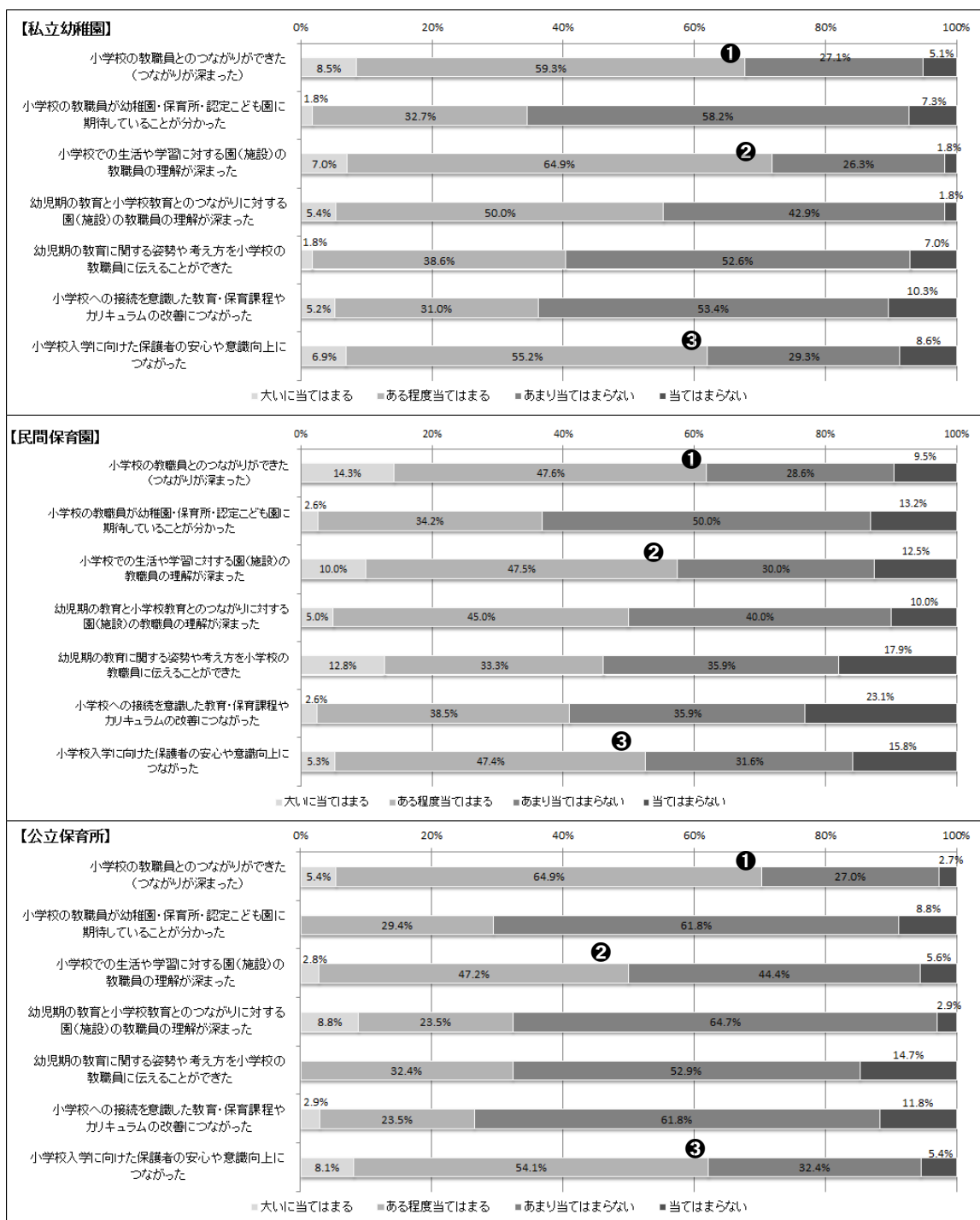
問 3-3 教職員同士の連携活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。(問 3-1 で 1~7 に○をつけた園(施設)のみ)

[幼保全体]



・「大いに当てはまる」「ある程度当てはまる」を合わせると、連携活動を実施している園(施設)の 66.6%が「小学校の教職員とのつながりができた」と、61.7%が「小学校での生活や学習に対する教職員の理解が深まった」と、59.4%が「小学校入学に向けた保護者の安心や意識向上につながった」と回答している。⇒①、②、③

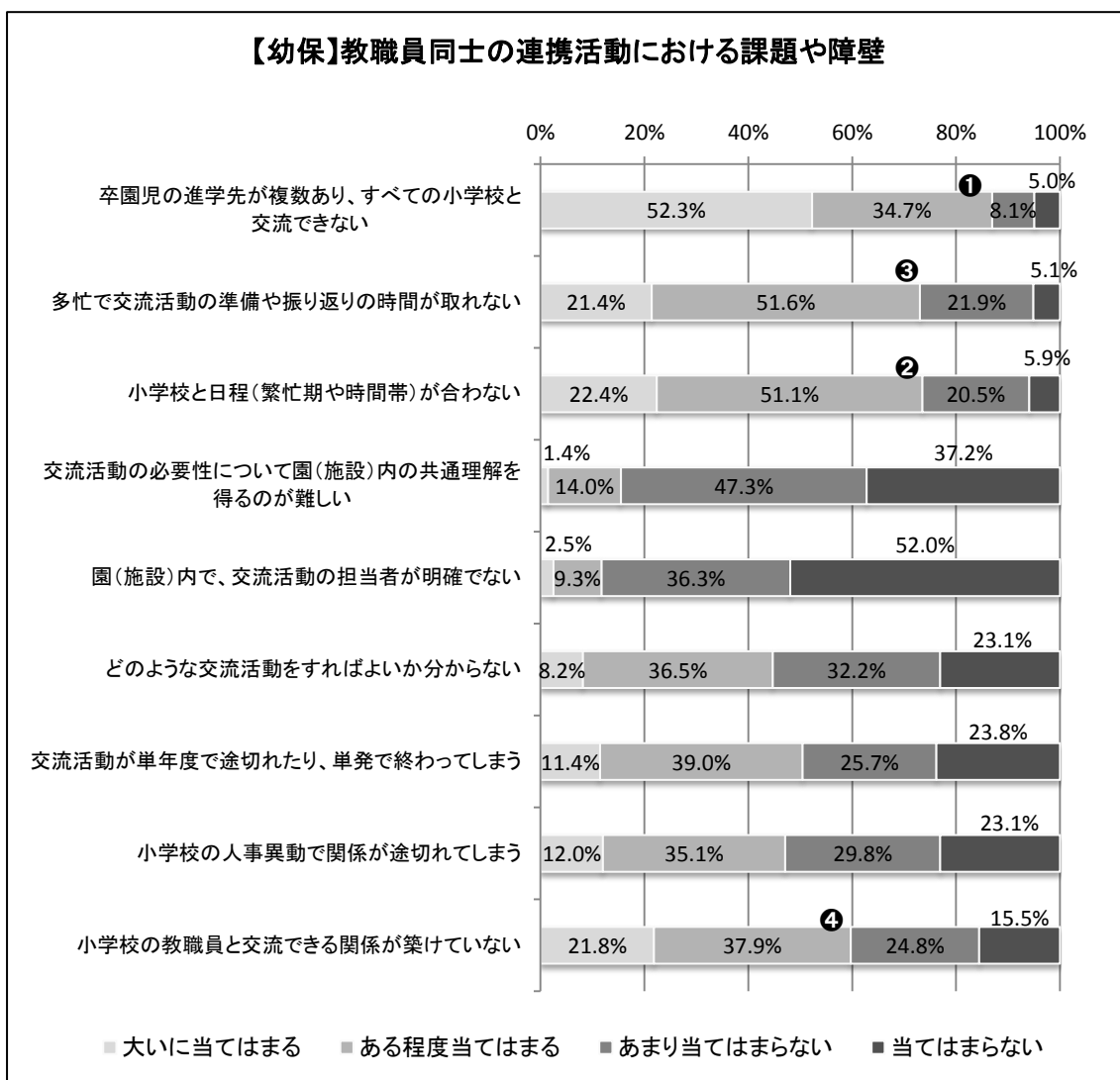
[種別ごと]



・私幼、民保、公保の種別を問わず、「小学校の教職員とのつながりができた」、「小学校での生活や学習に対する教職員の理解が深まった」、「小学校入学に向けた保護者の安心や意識向上につながった」の割合が高い。⇒①、②、③

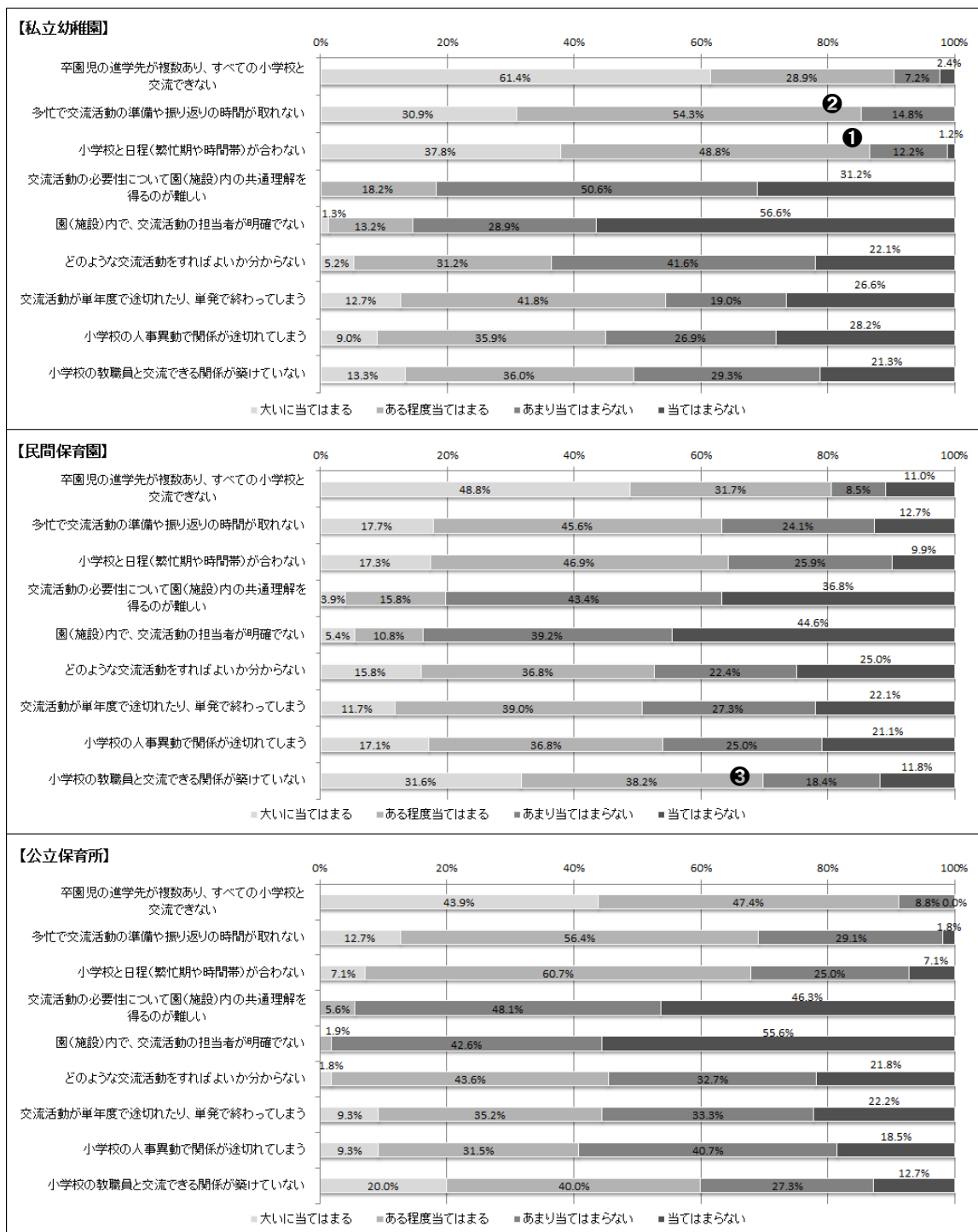
問 3-4 教職員同士の連携活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。
(複数回答)

[幼保全体]



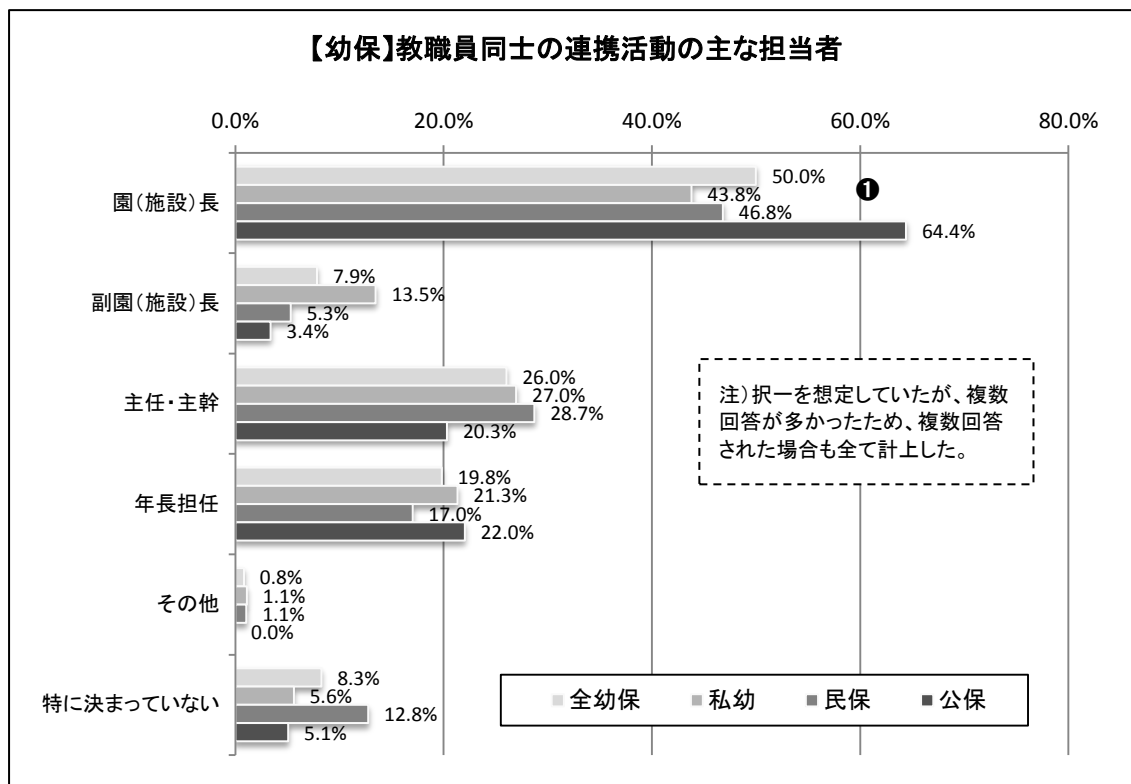
・「大いに当てはまる」「ある程度当てはまる」を合わせると 87.0%が「卒園児の進学先が複数あり、すべての小学校と交流できない」と、74.0%が「小学校と日程(繁忙期や時間帯)が合わない」と、73.0%が「多忙で交流活動の準備や振り返りの時間が取れない」と、59.7%が「小学校の教職員と交流できる関係が築けていない」と回答している。⇒①、②、③、④

[種別ごと]



- ・私幼は、民保・公保と比べて、「小学校と日程（繁忙期や時間帯）が合わない」、「多忙で交流活動の準備や振り返りの時間が取れない」の割合が高い。⇒①、②
- ・民保は、私幼・公保と比べて、「小学校の教職員と交流できる関係が築けていない」の割合が高い。⇒③

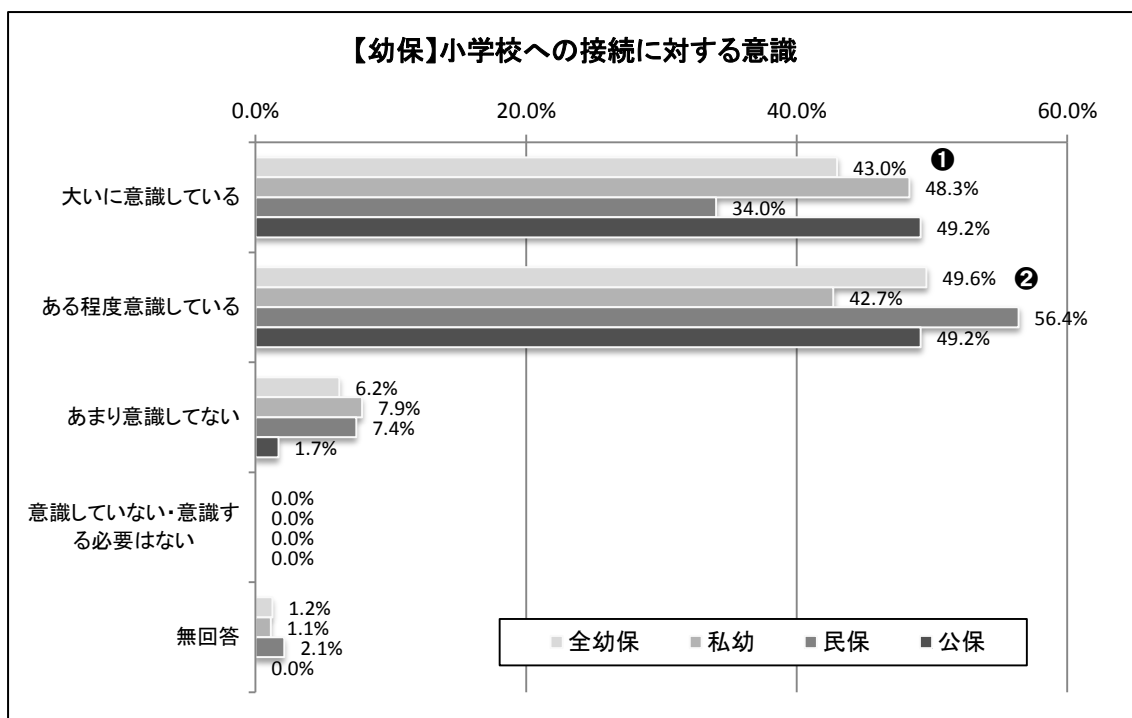
問 3-5 教職員同士の連携活動を中心となる行方担当者とはどなたですか。



・全幼保において、園（施設）長が交流活動を担当している園（施設）の割合が50.0%と最も高く、特に公保では64.4%と、私幼・民保と比べて高くなっている。⇒①

IV 幼保から小学校への接続に向けた取組みについて

問 4-1 特に年長児の教育・保育課程やカリキュラムの編成・実践において、幼児期の育ちや学びを小学校入学後の生活や学習につなげることを、どの程度意識していますか。



・「大いに意識している」「ある程度意識している」を合わせると、全幼保の92.6%が、教育・保育課程やカリキュラムの編成・実践において、幼児期の育ちや学びを小学校入学後の生活や学習につなげることを意識している。⇒①、②

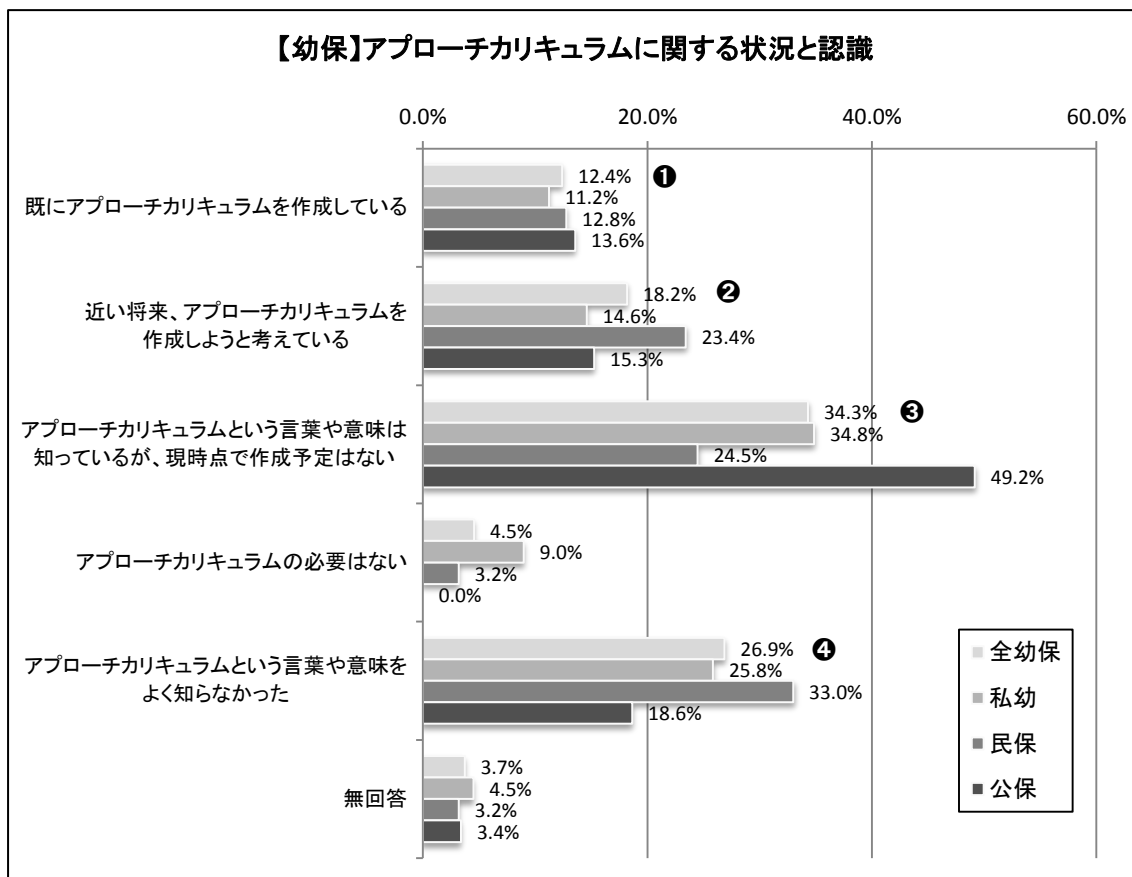
問 4-2 幼児期における育ちや学びを小学校入学後の生活や学習につなげることを意識して具体的に実践している取組みがあれば、簡潔にご記入ください。

※キーワードを抜き出したものであり、実際の回答そのものではない。

先生の話聴く／話し合う（他人の意見を聞く・自分の考えを伝える）／あいさつをする
 ／基本的生活習慣（食事、排せつ、和式トイレ、着替え、身支度、午睡、等）／道具（鉛筆、箸、はさみ等）の使い方／自主性・自立性／意欲・向上心・自信／目標・達成感／集中する／友だちとのかかわり／集団活動・集団での遊び／ルールを守る／時間への意識／見通しを持った活動／当番活動／言葉（絵本、読み聞かせ、等）／文字／数・量／自然との関わり／運動・体力づくり／危険や身の安全への意識

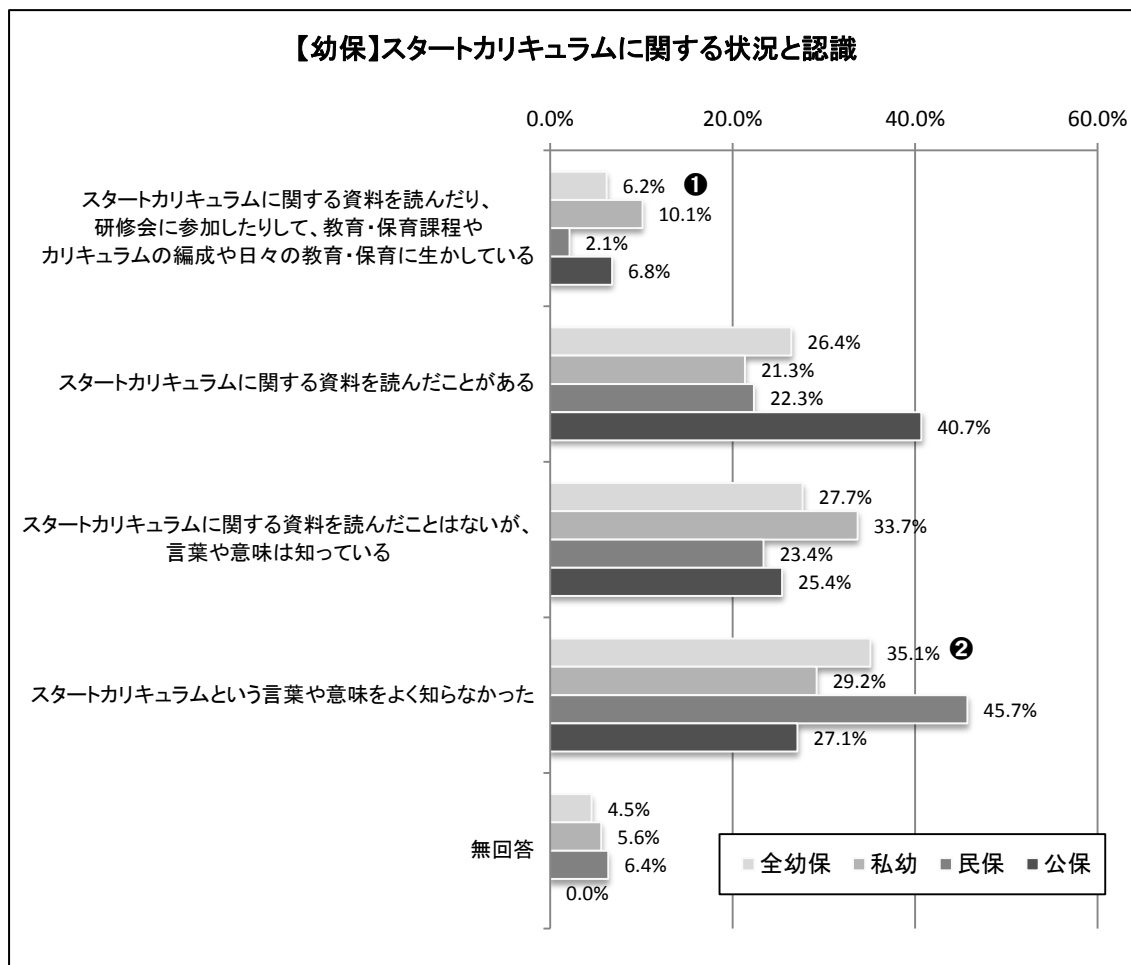
・各園（施設）が、小学校への接続を意識して、さまざまな具体的取組みを実施している。

問 4-3 アプローチカリキュラムについて、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。



- ・全幼保のうち、既にアプローチカリキュラムを作成している園（施設）は 12.4%、近い将来作成しようと考えている園（施設）は 18.2%となっている。⇒①、②
- ・全幼保において、「アプローチカリキュラムという言葉や意味を知っているが、現時点で作成予定はない」の割合が 34.3%と最も高くなっている。⇒③
- ・全幼保の 26.9%が、「アプローチカリキュラムという言葉や意味をよく知らなかった」と回答している。⇒④

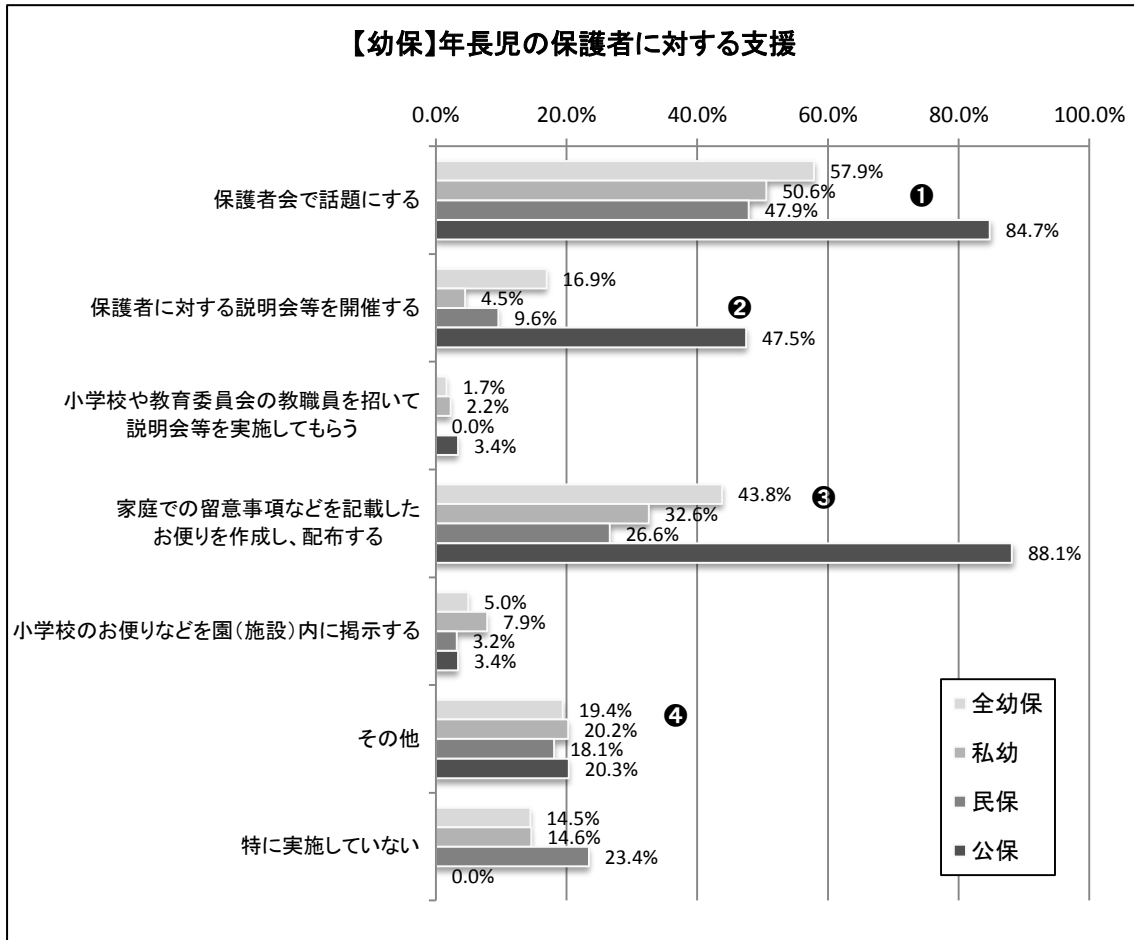
問 4-3 スタートカリキュラムについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。



- ・全幼保のうち、スタートカリキュラムを教育・保育課程やカリキュラム編成や日々の教育・保育に生かしている園（施設）は、6.2%にとどまる。⇒①
- ・全幼保において、「スタートカリキュラムという言葉や意味をよく知らなかった」の割合が35.1%と最も高くなっている。⇒②

V 小学校入学を控えた園児の家庭や保護者への支援や啓発について

問 5-1 年長児の保護者に対し、小学校入学に対する不安を和らげたり、家庭での入学に向けた準備を支援するために行っていることはありますか。(複数回答)

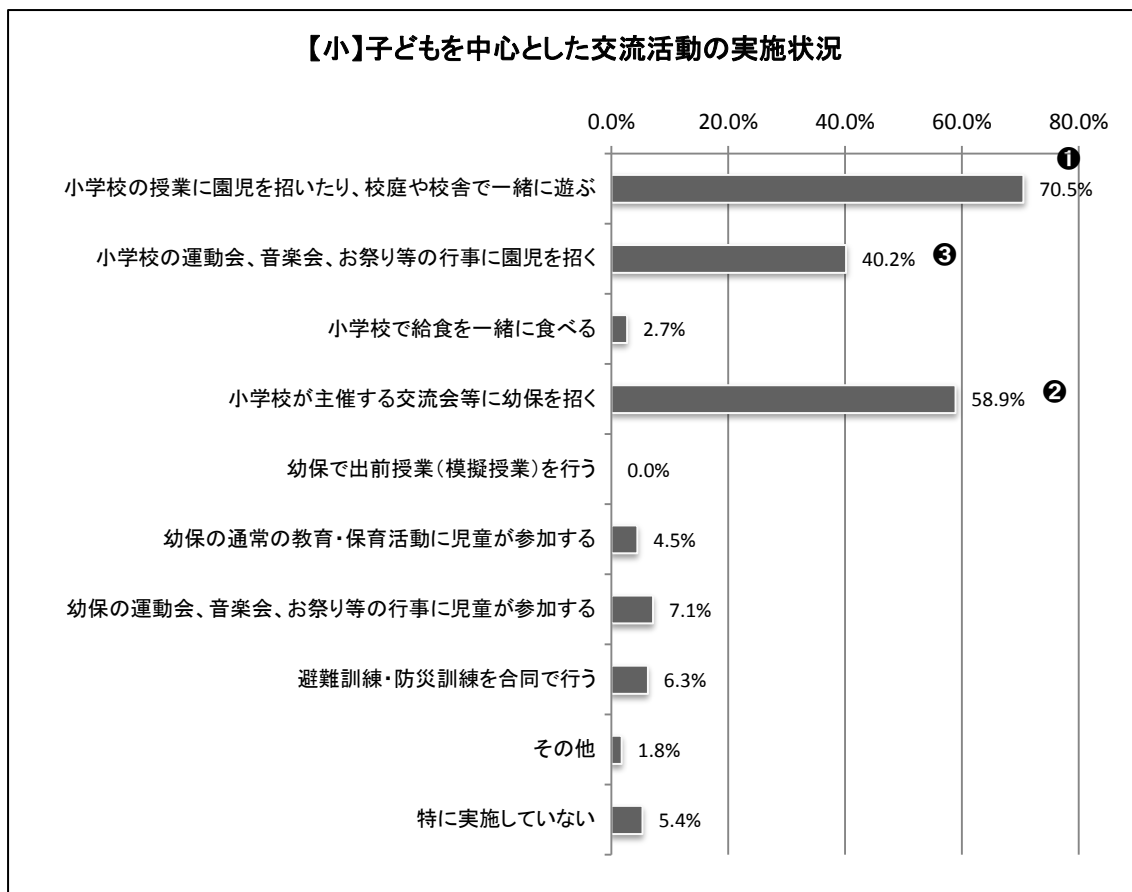


- ・全幼保の 57.9%が、保護者会で小学校への入学を話題にしており、公保は約 84.7%と、私幼・民保と比べて実施割合が高い。⇒①
- ・公保の 47.5%が保護者説明会を開催しており、私幼・民保と比べて実施割合が高い。⇒②
- ・全幼保の 43.8%が、家庭での留意事項などを記載したお便りを作成しており、公保は 88.1%と、私幼・民保と比べて実施割合が高い。⇒③
- ・「その他」として、私幼、民保、公保の種別を問わず、「個人面談の際に小学校について話す」が多く挙げられている。⇒④

<調査結果（小学校調査）>

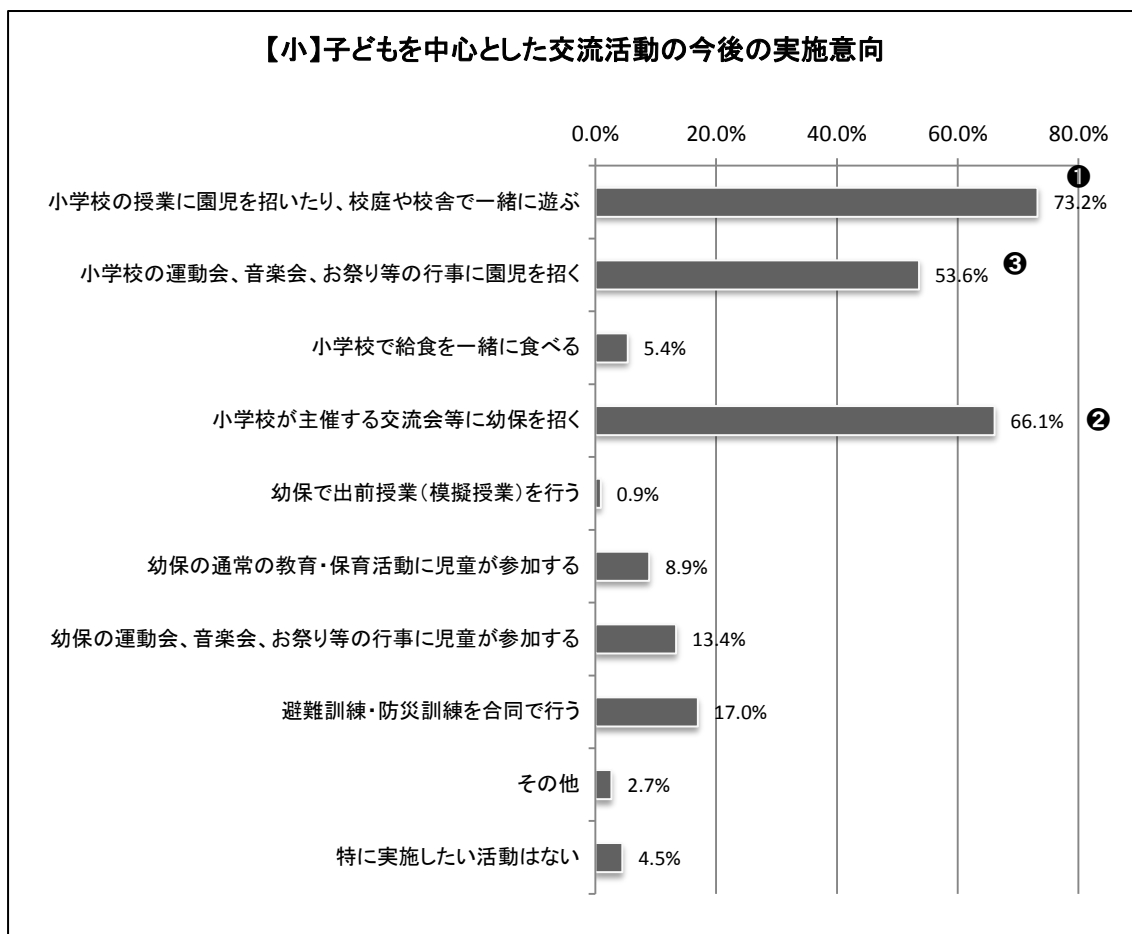
I 子どもを中心とした交流活動について

問 1-1 平成 27 年度、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施しましたか。(複数回答)



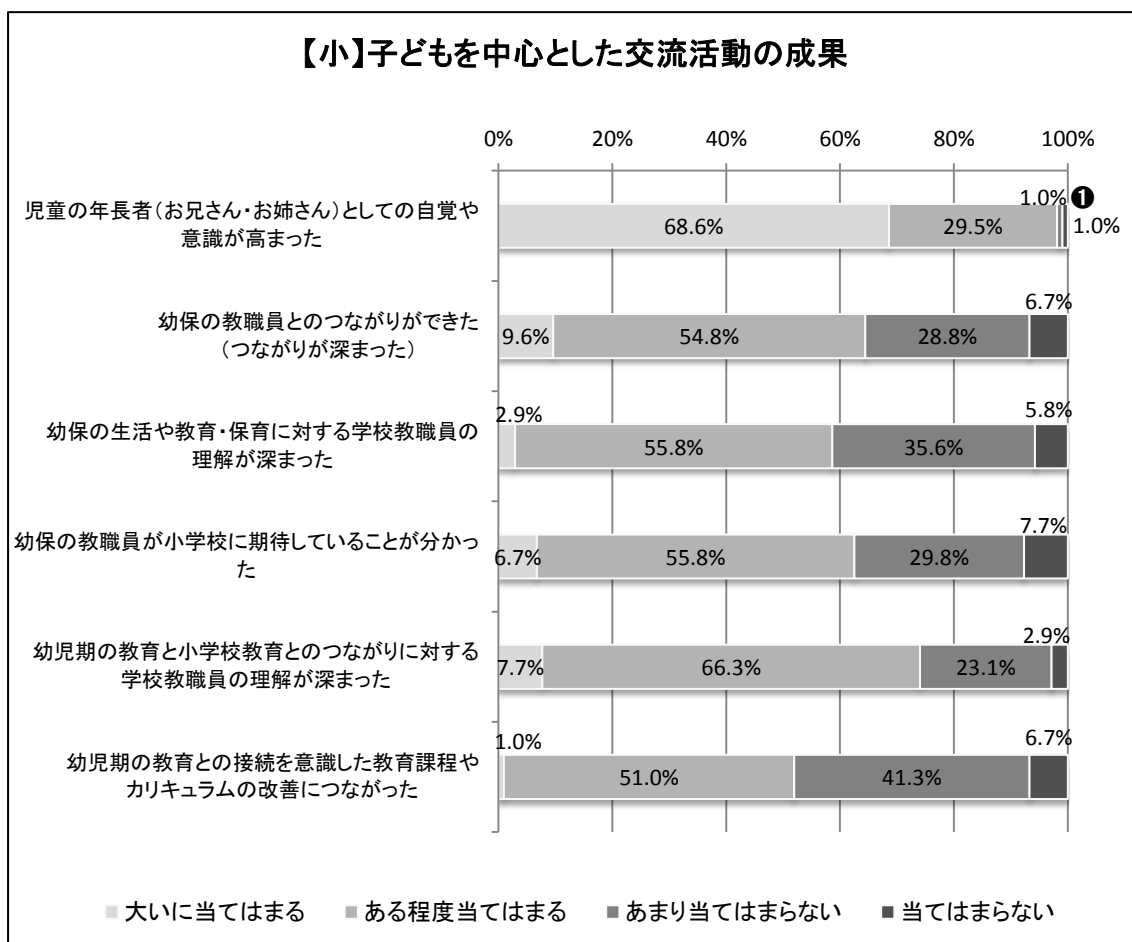
・ 70.5%が「授業に園児を招いたり、校庭や校舎で一緒に遊ぶ」活動を、58.9%が「主催する交流会等に幼保を招く」活動を、40.2%が「運動会、音楽会、お祭り等の行事に園児を招く」活動を実施している。⇒①、②、③

問 1-2 今後、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施したいと考えますか。(複数回答)



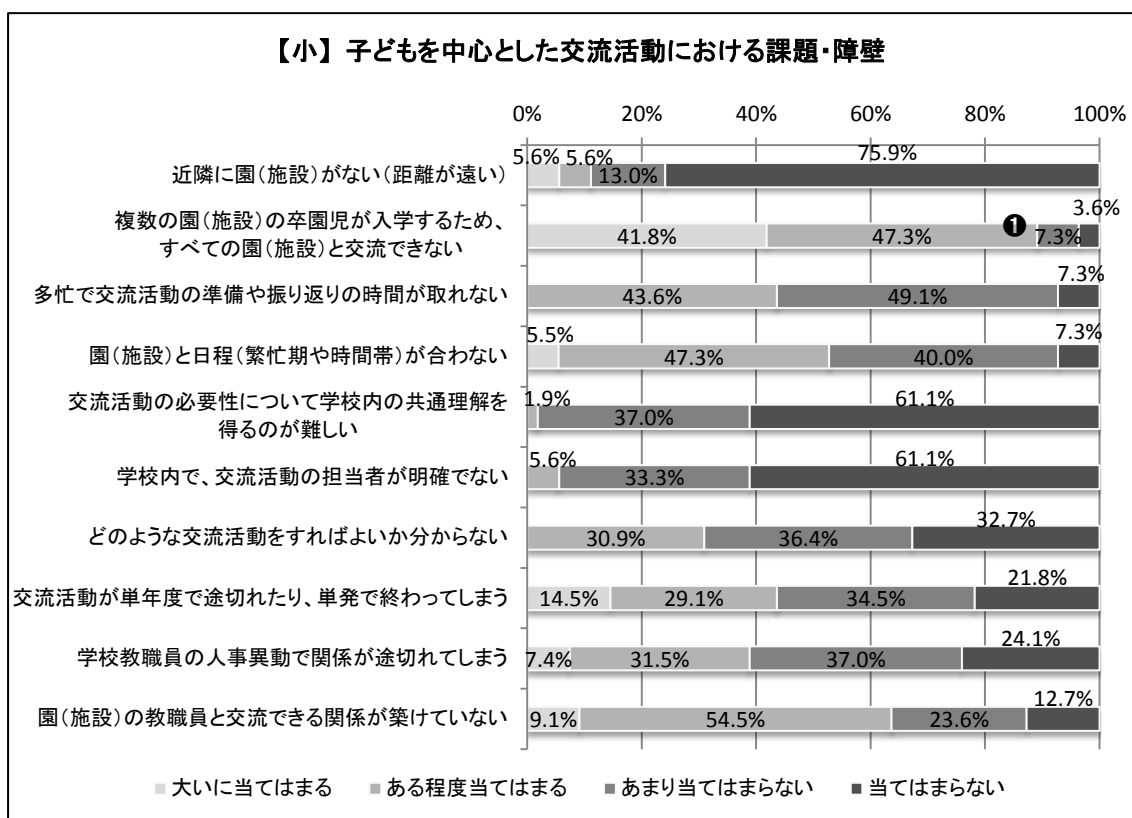
・現に実施している活動（「授業に園児を招いたり、校庭や校舎で一緒に遊ぶ」、「主催する交流会等に幼保を招く」、「運動会、音楽会、お祭り等の行事に園児を招く」）は、今後の実施意向も強い。⇒①、②、③

問 1-3 交流活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。(複数回答) (問 1-1 で 1~9 に○をつけた学校のみ)



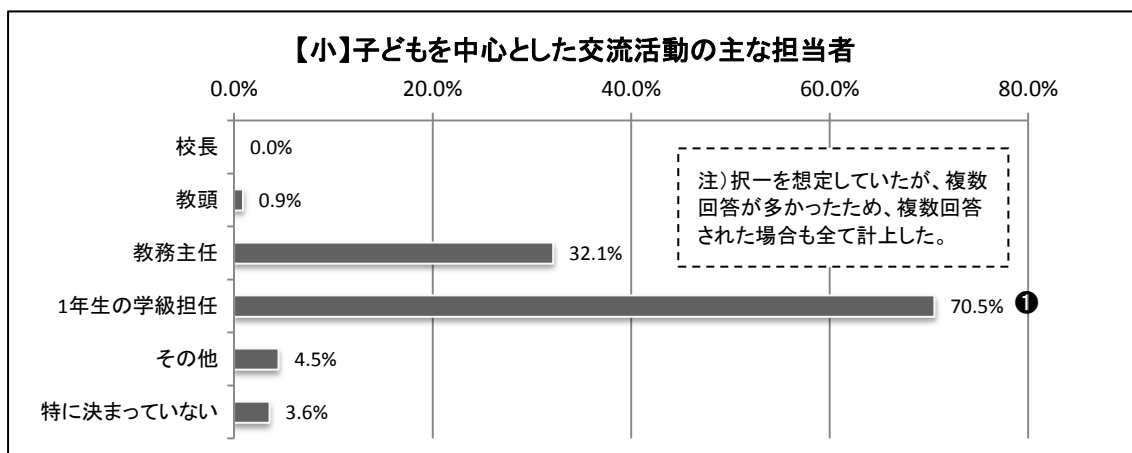
・「大いに当てはまる」「ある程度当てはまる」を合わせると、交流活動を実施した小学校のうち 98.1%が、「児童の年長者としての自覚や意識が高まった」と回答しており、「大いに当てはまる」の割合も 68.6%と高くなっている。⇒①

問 1-4 子どもを中心とした交流活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。(複数回答)



・「大いに当てはまる」「ある程度当てはまる」を合わせると、89.1%が「複数の園(施設)の卒園児が入学するため、すべての園(施設)と交流できない」と回答している。⇒①

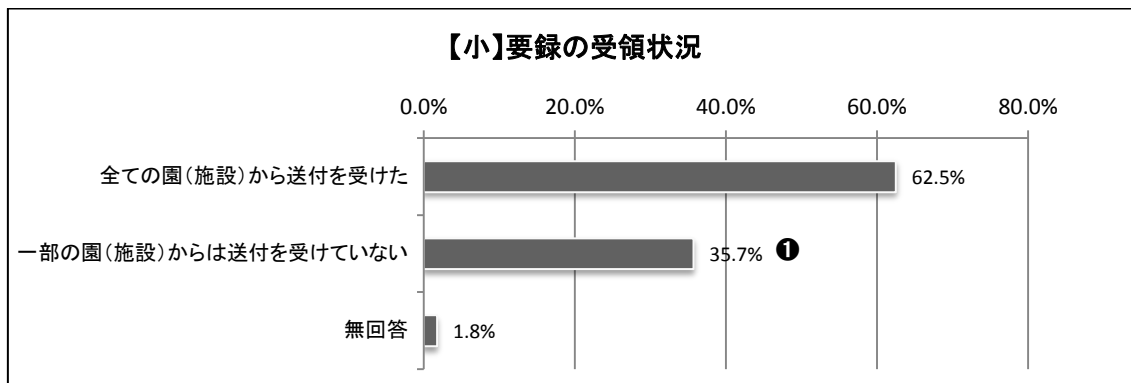
問 1-5 子どもを中心とした交流活動を中心となって行う担当者はどなたですか。



・70.5%の小学校で、1年生の学級担任が交流活動を担当している。⇒①

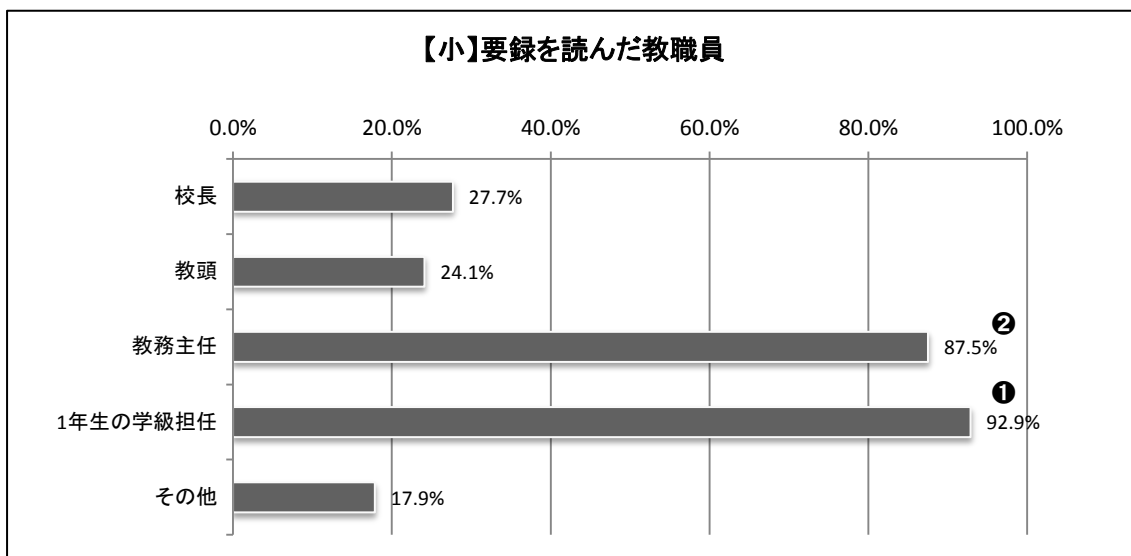
Ⅱ 要録について

問 2-1 平成 27 年度、全ての幼稚園・保育所・認定こども園から要録の送付を受けましたか。



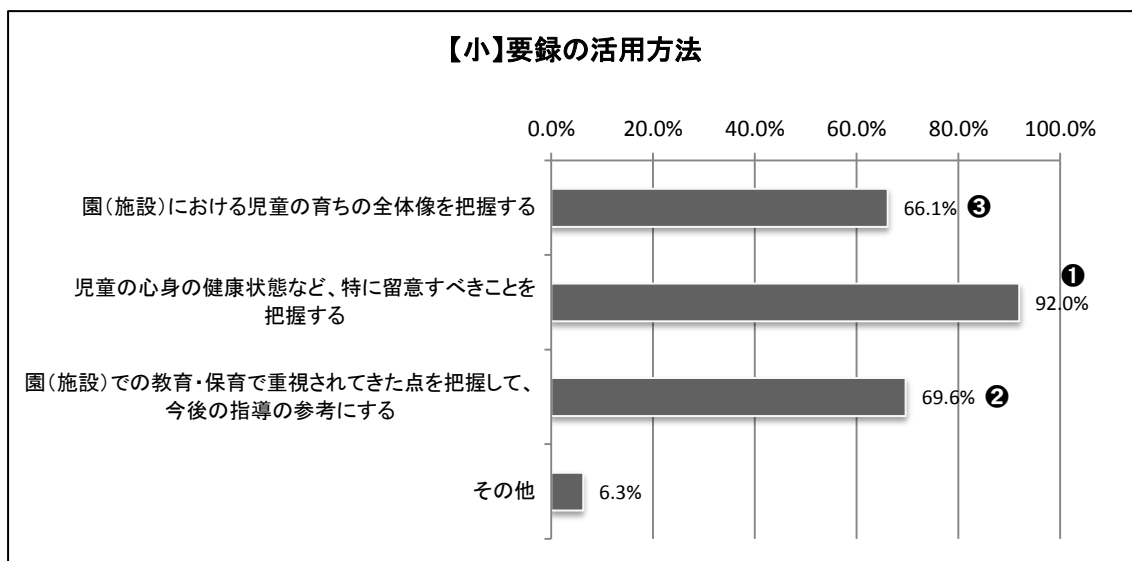
・ 35.7%の小学校が、一部の園（施設）から送付を受けていないと回答している。⇒①

問 2-2 平成 27 年度に送付を受けた要録を、誰が読みましたか。（複数回答）



・ 92.9%の小学校で 1 年生の学級担任が、87.5%の小学校で教務主任が、送付された要録を読んだと回答している。⇒①、②

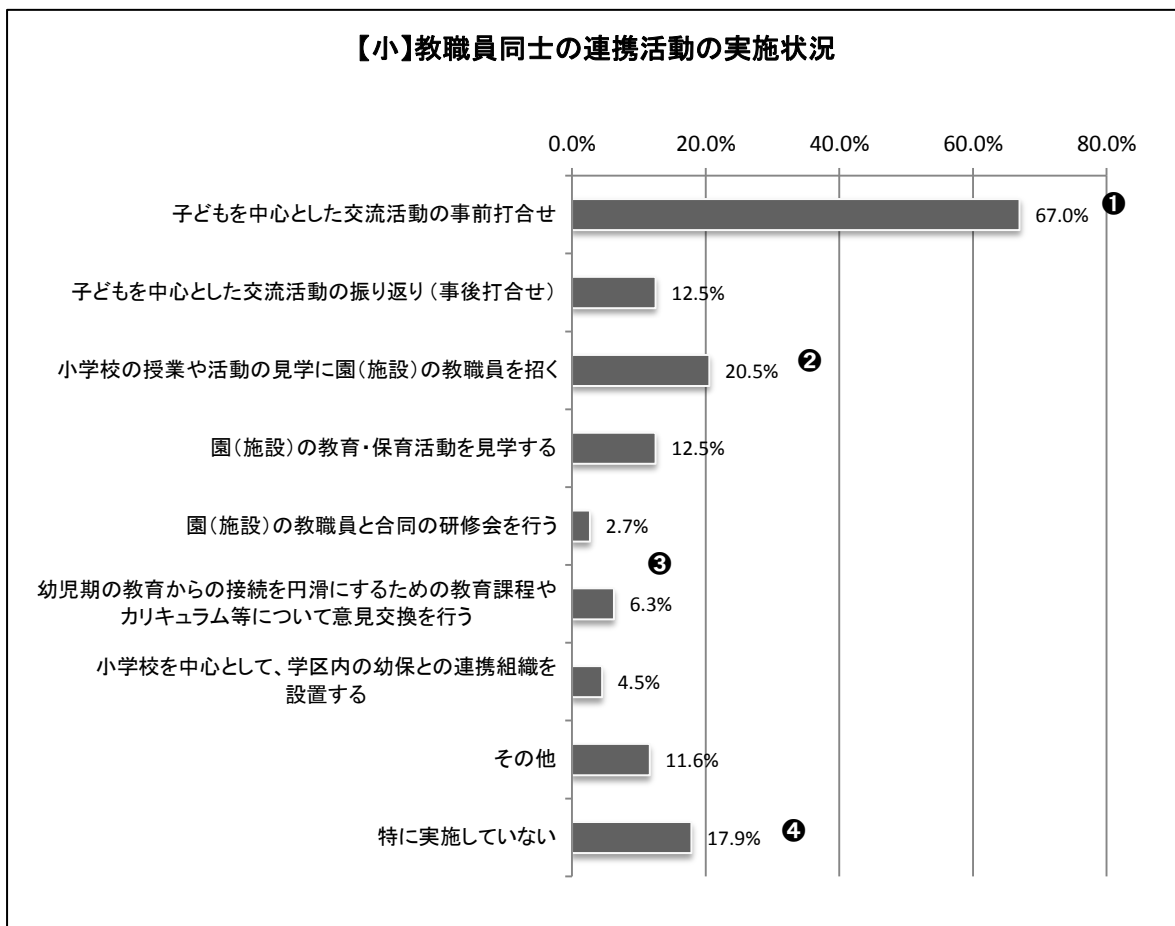
問 2-3 要録をどのように活用していますか。(複数回答)



- ・ 92.0%が「児童の心身の健康状態など、特に留意すべきことを把握する」と回答しており、割合が最も高くなっている。⇒①
- ・ 「園(施設)での教育・保育で重視されてきた点を把握して、今後の指導の参考にする」(69.6%)、「園(施設)における児童の育ちの全体像を把握する」(66.1%)についても、割合が高くなっている。⇒②、③

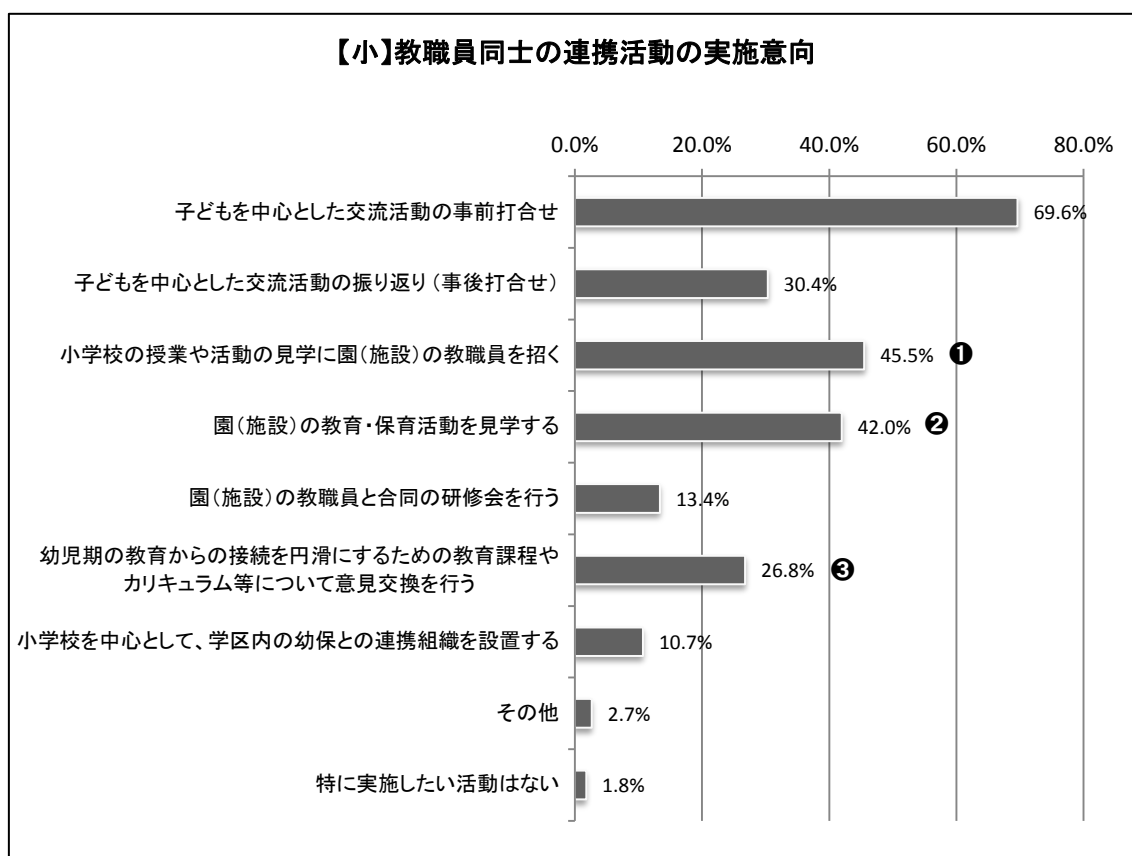
Ⅲ 教職員同士の連携活動について

問 3-1 平成 27 年度、次のような、幼稚園・保育所・認定こども園との教職員同士の連携活動を実施しましたか。(複数回答)



- ・ 67.0%の小学校で、子どもを中心とした交流活動の事前打合せが実施されている。⇒①
- ・ 20.5%の小学校が、小学校の授業や活動の見学に園(施設)を招いている。⇒②
- ・ 園(施設)教職員との合同研修や、幼児教育からの接続を円滑にするための教育課程やカリキュラム等についての意見交換を実施している小学校は少なく、17.9%が教職員同士の連携活動を「特に実施していない」と回答している。⇒③、④

問 3-2 今後、次のような、幼稚園・保育所・認定こども園との教職員同士の連携活動を実施したいと考えますか。(複数回答)



・ 現に実施されていない活動も含め、全般的に教職員同士の連携活動に対するニーズは高い。

「小学校の授業や活動の見学に園(施設)の教職員を招く」

H27 実施状況：20.5% → 今後の実施意向：45.5% ⇒①

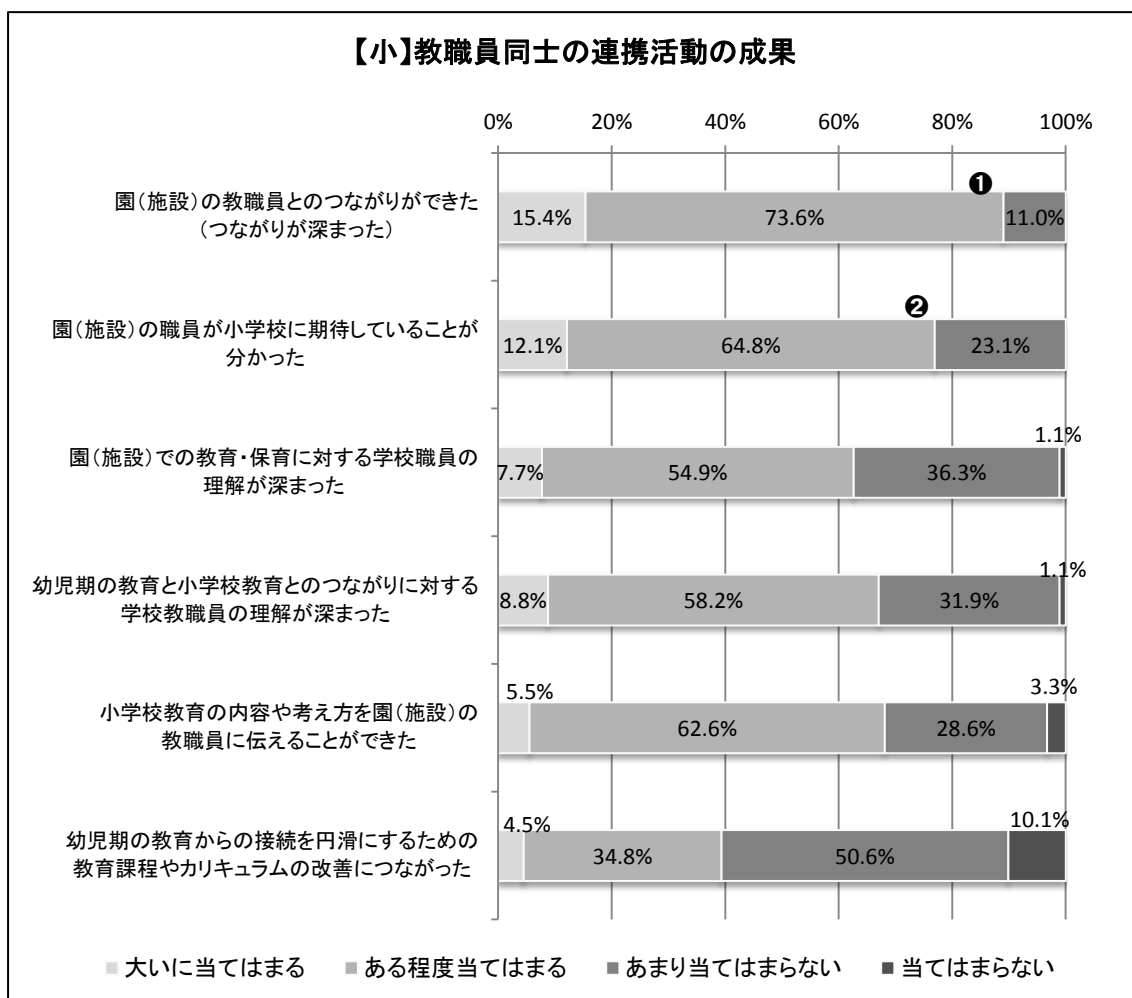
「園(施設)の教育・保育活動を見学する」

H27 実施状況：12.5% → 今後の実施意向：42.0% ⇒②

「幼児教育からの接続を円滑にするための教育課程やカリキュラム等についての意見交換を行う」

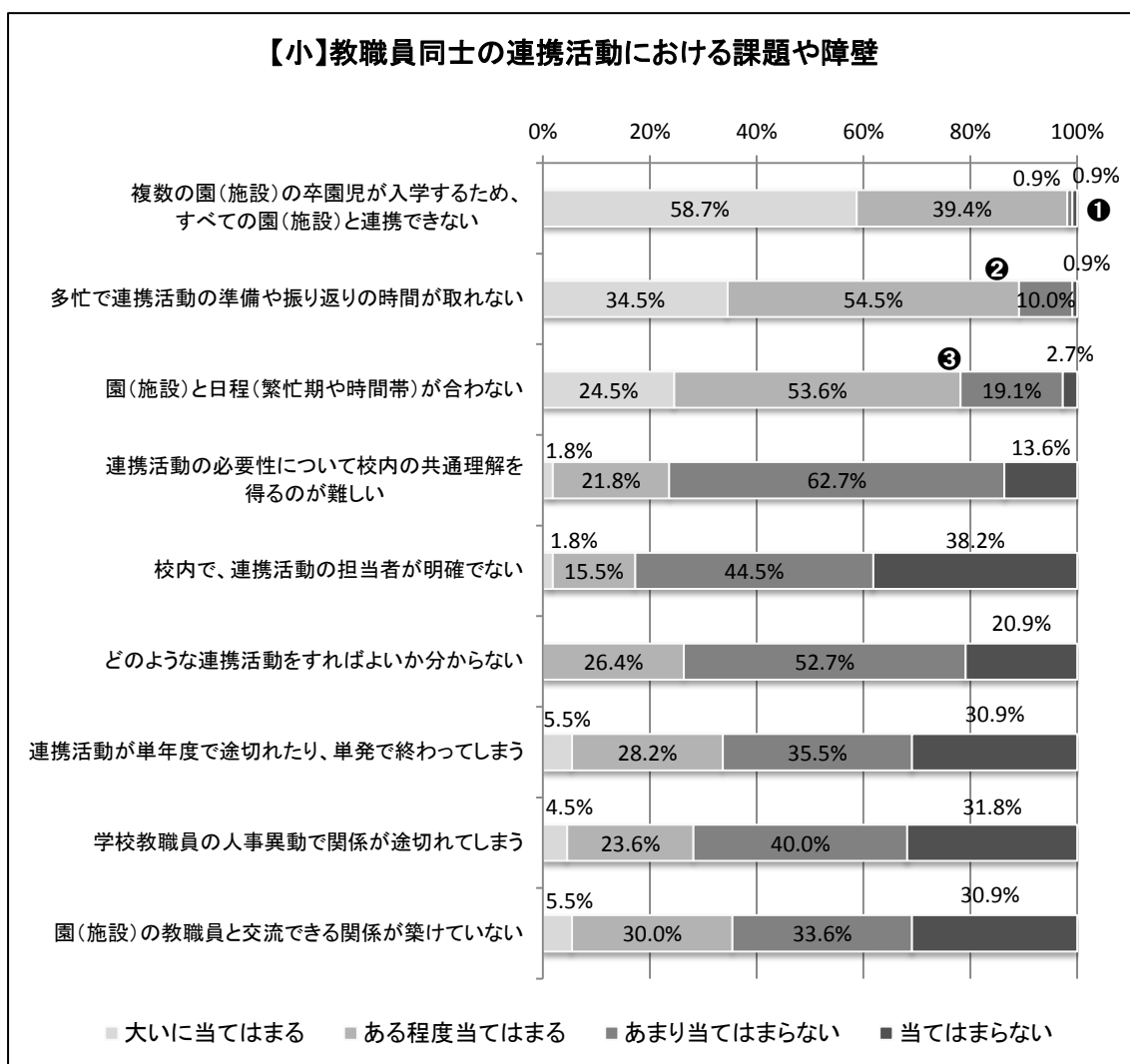
H27 実施状況：6.3% → 今後の実施意向：26.8% ⇒③

問 3-3 教職員同士の連携活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。(問 3-1 で 1~8 に○をつけた園(施設)のみ)



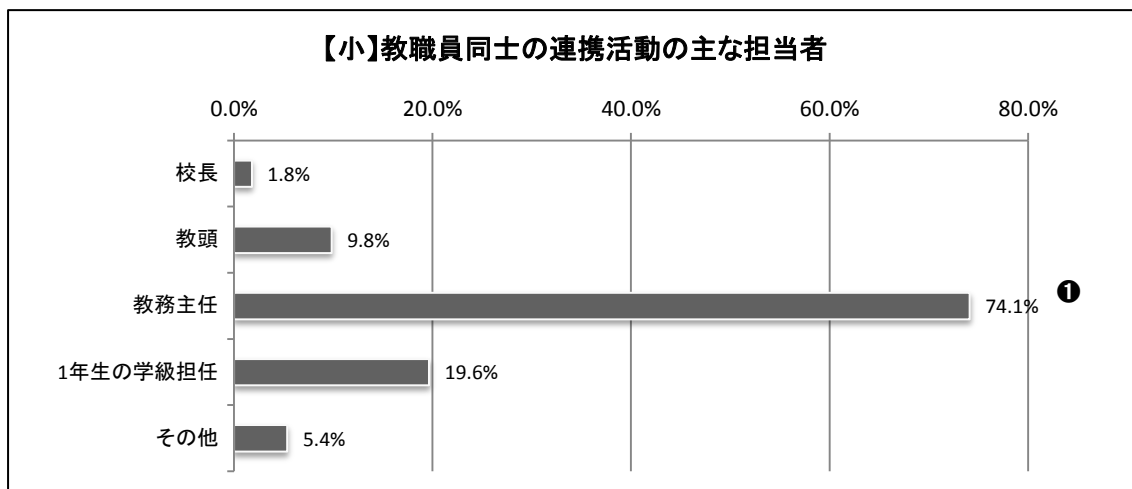
・「大いに当てはまる」「ある程度当てはまる」を合わせると、連携活動を実施している小学校の 89.0%が「園(施設)の教職員とのつながりができた」と、76.9%が「園(施設)の教職員が小学校に期待していることが分かった」と回答している。⇒①、②

問 3-4 教職員同士の連携活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。
(複数回答)



・「大いに当てはまる」「ある程度当てはまる」を合わせると、ほぼ全ての小学校が「卒園児の進学先が複数あり、すべての小学校と交流できない」と、89.0%が「多忙で連携活動の準備や振り返りの時間が取れない」と、78.1%が「園(施設)と日程(繁忙期や時間帯)が合わない」と回答している。⇒①、②、③

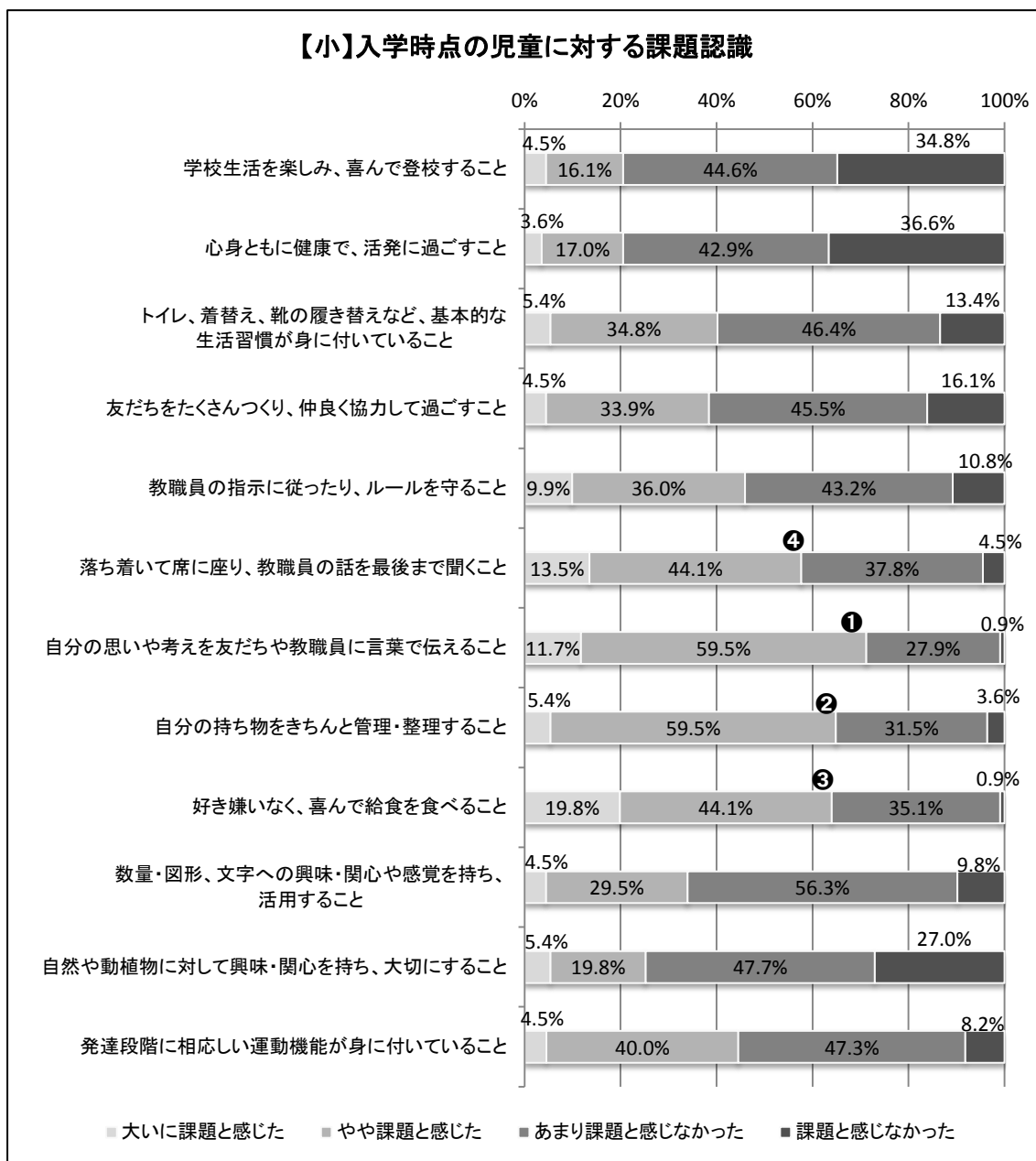
問 3-5 教職員同士の連携活動を中心となるって行う担当者はどなたですか。



・ 74.1%の小学校で、教務主任が連携活動を担当している。⇒①

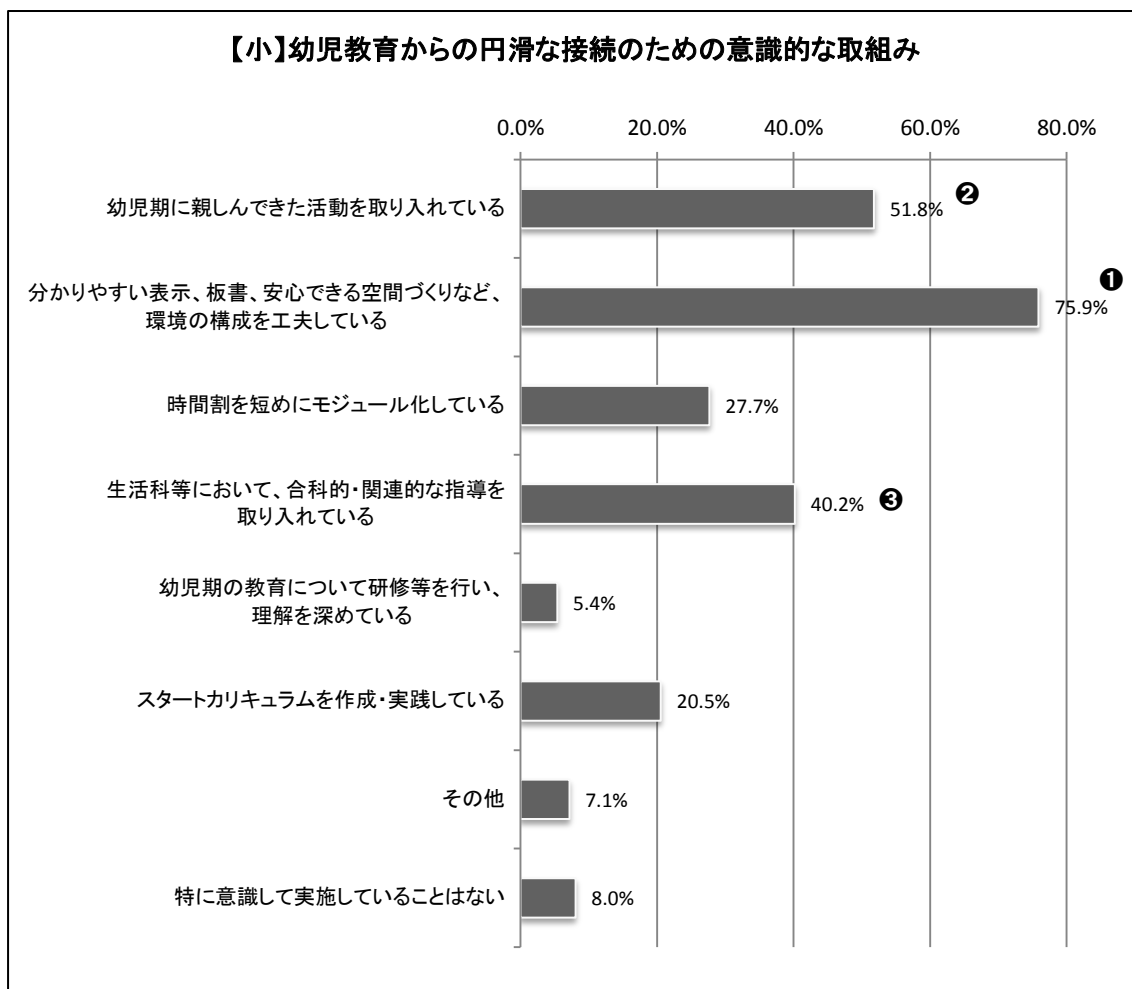
IV 幼保から小学校への接続に向けた取組みについて

問 4-1 平成 28 年 4 月時点で、1 年生の学年全体として、入学した児童の様子で課題と感じたことはありますか。



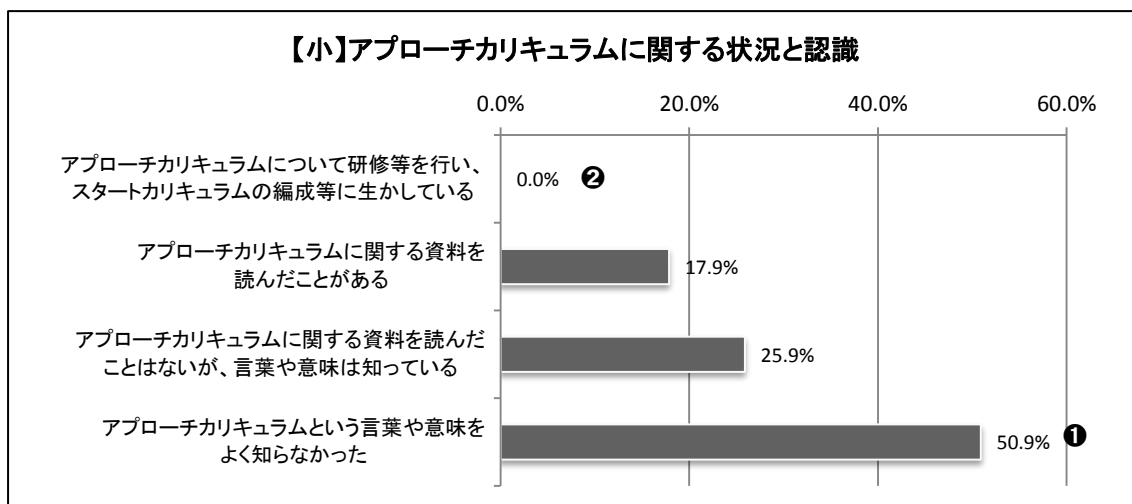
・「大いに課題と感じた」「やや課題と感じた」を合わせると、割合の高い順に、「自分の思いや考えを友だちや教職員に言葉で伝えること」(71.2%)、「自分の持ち物をきちんと管理・整理すること」(64.9%)、「好き嫌いなく、喜んで給食を食べること」(63.9%)、「落ち着いて席に座り、教職員の話を最後まで聞くこと」(約 57.6%) となっている。⇒①、②、③、④

問 4-2 特に1年生の前半に、幼児期の教育からの接続を円滑にするために意識的に実践した取り組みはありますか。



- ・ 75.9%の小学校が、分かりやすい表示、板書、安心できる空間づくりなど、環境の構成を工夫している。（具体例：イラスト・写真等の活用、板書や掲示物の文字の大きさ、クラス別の色分け等）⇒①
- ・ 51.8%の小学校が、幼児期に親しんできた活動を取り入れている。（具体例：手遊び、歌、絵本の読み聞かせ等）⇒②
- ・ 40.2%の小学校が、生活科等において、合科的・関連的な指導を取り入れている。（具体例：生活科と図工・国語との合科的指導、学校探検等）⇒③

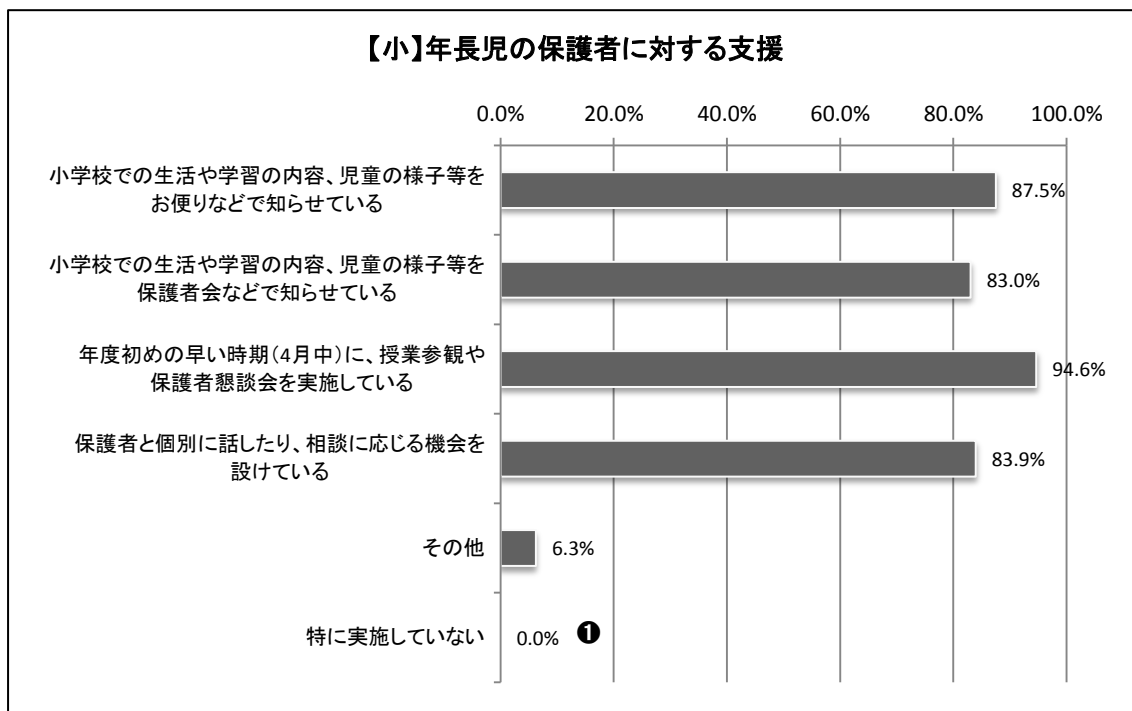
問 4-3 アプローチカリキュラムについて、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。



・ 50.9%の小学校が、「アプローチカリキュラムという言葉や意味をよく知らなかった」と回答しており、「アプローチカリキュラムについて研修等を行い、スタートカリキュラムの編成等に生かされている」と回答した小学校はなかった。⇒①、②

V 小学校入学を控えた園児の家庭や保護者への支援や啓発について

問 5-1 年長児の保護者に対し、小学校入学に対する不安を和らげたり、家庭での入学に向けた準備を支援するために行っていることはありますか。(複数回答)



・いずれの選択肢についても、8割以上の小学校で実施されており、全ての小学校で何らかの支援が実施されている。⇒①

<参考資料>

千葉市幼保小連携・接続実態調査 調査票

＜記入方法＞

① に着色された欄に回答をご記入ください。(それ以外のセルは編集できません。)

② 質問に特段のことわりがない限り、全ての質問にご回答ください。

園(施設)名	連絡先		
園長(施設長)名	記入者	氏名	校
平成28年4月に卒園児が入学した小学校の数			

1 小学校の子どもを中心とした交流活動について

問1-1 平成27年度、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施しましたか、
当てはまる番号(1～5)に○をつけてください。

1	園(施設)の通常の教育・保育活動に小学生を招く	
2	園(施設)の運動会、音楽会、お祭り等の行事に小学生を招く	
3	小学校の授業に参加したり、校庭や校舎で一緒に遊ぶ	
4	小学校の運動会、音楽会、お祭り等の行事に参加する	
5	小学校で一緒に給食を食べる	
6	小学校の幼稚園・保育所・認定こども園等と共同で実施する交流会等に参加する	
7	小学校の先生を招いて出前授業(黒板授業)を行ってもらう	
8	遊園地・防災訓練を共同で行う	
9	その他(特色ある取組みがあれば、簡潔に記入ください。)	
10	特に実施していない	

問1-2 今後、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施したいと考えますか。
当てはまる番号(1～5)に○をつけてください。

注:平成27年度に実施した活動で、今後も引き続き実施したいものにも○をつけてください。

1	園(施設)の通常の教育・保育活動に小学生を招く	
2	園(施設)の運動会、音楽会、お祭り等の行事に小学生を招く	
3	小学校の授業に参加したり、校庭や校舎で一緒に遊ぶ	
4	小学校の運動会、音楽会、お祭り等の行事に参加する	
5	小学校で一緒に給食を食べる	
6	小学校の幼稚園・保育所・認定こども園等と共同で実施する交流会等に参加する	
7	小学校の先生を招いて出前授業(黒板授業)を行ってもらう	
8	遊園地・防災訓練を共同で行う	
9	その他 ()	
10	特に実施したい活動はない	

次ページに続きます

問1-3 問1-1で1～3に○をつけられたのみお答えください。

交流活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。

次の各項目につき、A～Dの当てはまるものに○をつけてください。

※A:大いに当てはまる/B:ある程度当てはまる/C:あまり当てはまらない/D:当てはまらない

子どもを中心とした交流活動による成果・効果	A	B	C	D
1 園児の小学校入学への期待が高まった				
2 園児の小学校での生活や学習への興味・関心が高まった				
3 小学校の教職員とのつながりができた(つながりが深まった)				
4 小学校での生活や学習に対する園(施設)の教職員の理解が高まった				
5 小学校の教職員が幼稚園・保育所・認定こども園に期待していることが分かった				
6 幼児期の教育と小学校教育とのつながりに対する園(施設)の教職員の理解が高まった				
7 小学校への接点を意識した教育・保育課程やカリキュラムの改訂につながった				
8 小学校入学に向けた保護者の安心や意識向上につながった				
その他、成果・効果があれば簡潔に記入ください				

問1-4 子どもを中心とした交流活動の実施に当たり、課題や問題となっていることはありませんか。

次の各項目につき、A～Dの当てはまるものに○をつけてください。

※A:大いに当てはまる/B:ある程度当てはまる/C:あまり当てはまらない/D:当てはまらない

子どもを中心とした交流活動における課題や問題	A	B	C	D
1 近隣に小学校がない(距離が遠い)				
2 卒園児の進学先が複数あり、すべてで小学校と交流できない				
3 多忙で交流活動の準備や振り返りの時間が取れない				
4 小学校と日程(繁忙期や時間帯)が合わない				
5 交流活動の必要性について園(施設)内の共通理解を導くが難しい				
6 園(施設)内で、交流活動の担当者が明確でない				
7 どのような交流活動をすればよいか分からない				
8 交流活動が単年度で途切れたり、単発で終わってしまふ				
9 小学校の人事異動で関係が途切れてしまふ				
10 小学校の教職員と交流できる関係が築けていない				
その他、課題や課題となったことあれば簡潔に記入ください				

問1-5 子どもを中心とした交流活動を中心として行う担当者とはななですか。当てはまる番号(1～5)に○をつけてください。

1 園(施設)長	4 年長担任
2 副園(施設)長	5 その他 ()
3 主任・主幹	6 特に決まっていない

次ページに続きます

1 調査票 (幼保調査)

Ⅱ 実績について

Ⅲ 小学校の教職員同士の支援活動について

問2-1 平成27年度、小学校に児童録(幼稚園児童児童録、保育所児童児童録児童録又は認定こども園こども児童録)を送付しましたか。
 当てはまる番号1に○をつけてください。

1	3月中旬に送付した	3	送付していない
2	4月に入ってから送付した		

問2-2 児童録の作成に関して課題と感じていることは何ですか、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	本当に伝えたいことが書けない
2	何をどのように書くべきか分からない
3	園(施設)内で記載内容や記入方法を統一するのが難しい
4	作成に期間が掛かり、事務負担が大きい
5	小学校でどのように活用されているか分からない
6	その他 ()

次ページに続きます

問3-1 平成27年度、次のような、小学校との教職員同士の連携活動を実施しましたか。
 当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	子どもを中心とした交流活動の事前打合せ
2	子どもを中心とした交流活動の振り返り(事後打合せ)
3	小学校の授業や活動を見学する
4	小学校の教職員を教育・保育活動に招く
5	小学校の教職員と合同の研修会を行う
6	小学校への接続を見据えた教育・保育課程やカリキュラム等について意見交換を行う
7	その他(特色ある取組みがあれば、簡潔に記入ください。)
8	特に実施していない。

問3-2 今後、次のような、小学校の教職員同士の連携活動を実施したいと考えますか。
 当てはまる番号すべてに○をつけてください。

※平成27年度に実施した活動で、今後もしばらく継続実施したいものにも○をつけてください。

1	子どもを中心とした交流活動の事前打合せ
2	子どもを中心とした交流活動の振り返り(事後打合せ)
3	小学校の授業や活動を見学する
4	小学校の教職員を教育・保育活動に招く
5	小学校の教職員と合同の研修会を行う
6	小学校への接続を見据えた教育・保育課程やカリキュラム等について意見交換を行う
7	その他 ()
8	特に実施したい活動はない

問3-3 問3-1で1に○をつけた5つのお答えください。

教職員同士の連携活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。

次の各項目につき、A-Dの当てはまるものに○をつけてください。

※A:大いに当てはまる、B:ある程度当てはまる、C:あまり当てはまらない、D:当てはまらない

	教職員同士の連携活動による成果・効果	A	B	C	D
1	小学校の教職員とのつながりができた(つながりが深まった)				
2	小学校の教職員が幼稚園・保育所・認定こども園に期待していることが分かった				
3	小学校での生活や学習に対する園(施設)の教職員の理解が深まった				
4	幼児期の教育や小学校教育とのつながりに対する園(施設)の教職員の理解が深まった				
5	幼児期の教育に関する姿勢や考え方を小学校の教職員に伝えることができた				
6	小学校への接続を意識した教育・保育課程やカリキュラムの改善につながった				
7	小学校入学に向けた保護者の安心や意識向上につながった				
その他、成果・効果があれば簡潔に記入ください					

次ページに続きます

問3-4 教職員同士の連携活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありませんか。

次の各項目につき、△○の当てはまるものを1つに○をつけてください。

※A, Bに当てはまる、目がある程度当てはまる、C, あまり当てはまらない、D, 当てはまらない

教職員同士の連携活動における課題や障壁		A	B	C	D
1	年間児の進捗先が異なり、すべての小学校と交流できない				
2	多忙で交流活動の準備や振り返りの時間が取れない				
3	小学校と日程(集仕期や時間帯)が合わない				
4	交流活動の必要性について園(施設)内の共通理解を得るのが難しい				
5	園(施設)内で、交流活動の担当者が明確でない				
6	どのような交流活動がよいかわからない				
7	交流活動が単年度で途切れたり、単発で終わってしま				
8	小学校の教職員と交流できる関係が築けていない				
9	小学校の人事異動で関係が途切れてしま				
その他、課題や障壁とわかることがあれば簡潔に記入ください					

問3-5 教職員同士の連携活動を中心として行う担当者とはなですか、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1	園(施設)長	4	年長担任
2	副園(施設)長	5	その他 ()
3	主任・主幹	6	特に決まっていない

※ページに続きます

IV 小学校への連携に向けた取組等について

問4-1 誰に生活見学の教育・保育課程やカリキュラムの構成・実施において、幼児期の育ちや学びをい学校入学期後の生活や学習につなげることを、どの程度意識していますか。

当てはまる番号1つに○をつけてください。

1	大いに意識している	4	意識していない
2	ある程度意識している	5	意識する必要はない
3	あまり意識していない		

問4-2 問4-1で△は○をつけた五のみお答えください。

幼児期における育ちや学びをい学校入学期後の生活や学習につなげることを意識して具体的に実施している取組があれば、簡潔にご記入ください。(3つまで)

1	
2	
3	

問4-3 「フロンチャリキュラム」について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1	既にフロンチャリキュラム(名称は問いません)を作成している
2	近い将来、フロンチャリキュラム(名称は問いません)を作成しようと考えている
3	フロンチャリキュラムという言葉や意味は知っているが、現時点で作成予定はない
4	フロンチャリキュラムの必要はない
5	フロンチャリキュラムという言葉や意味を知らなかった

<フロンチャリキュラムとは>

幼児期における発達や学びを小学校での生活や学習に円滑に接続するために、幼児期の教育・保育が終了する前の「接続期」(概ね年長期の後半)に、幼稚園・保育所・認定こども園で実施するカリキュラムです。

問4-4 「スタートカリキュラム」について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1	スタートカリキュラムに関する資料を誰かが作り、研修会に参加したりして、教育・保育課程やカリキュラムの構成や日々の教育・保育に生かしている
2	スタートカリキュラムに関する資料を誰かだことがある
3	スタートカリキュラムに関する資料を誰かだことはないが、言葉や意味は知っている
4	スタートカリキュラムという言葉や意味を全く知らない

<スタートカリキュラムとは>

幼児期における発達や学びを小学校での生活や学習に円滑に接続するために、入学後の「接続期」(概ね年生の前半)に、小学校で実施するカリキュラムです。千葉県教育委員会では、平成22年度に市立小学校におけるモデルとして「1人スタートカリキュラム」を作成しています。

※ページに続きます

Ⅳ 小学校入学を控えた子どもの家庭や保護者への支援や啓発について

問5-1 年長児の保護者に対し、小学校入学に対する不安を和らげたり、家庭での入学に向けた準備を支援するために
行っていることはありますか。
当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	保護者会等を通じて	
2	保護者に対する説明会等を開催する	
3	小学校や教育委員会の教員を招いて説明会等を開催してもらう	
4	家庭での留意事項などを記載したお便りを作成し、配布する	
5	小学校のお便りなど名刺(施設)内に掲示する	
6	その他(特定の取組みがあれば、簡潔に記載ください。)	
7	特に実施していません	

Ⅴ 小学校との連携・接續に関するご意見等

問6-1 小学校との連携・接續についてご意見等がございましたら、ご自由に記入ください。

～ ご協力ありがとうございました ～

千葉市幼保小連携・接続実態調査 調査票

＜記入方法＞
 □に黄色がされた欄に回答をご記入ください。(それ以外のセルは編集できません。)
 ◎ 既欄に特段のことがない限り、全ての既欄にご回答ください。

学校名	連絡先	氏名
校長氏名	記入者	職
平成28年4月に入学した児童が所属した幼稚園・保育所・認定こども園の教		
園(施設)		

1 幼稚園・保育所・認定こども園との子どもを中心とした交流活動について

問1-1 平成27年度、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施しましたか。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	小学校の授業に園児を招いたり、校庭や校舎で一緒に遊ぶ
2	小学校の運動会、音楽会、お祭り等の行事に園児を招く
3	小学校で給食を一緒に食べる
4	小学校が主催する交流会等に幼稚園・保育所・認定こども園を招く
5	幼稚園・保育所・認定こども園で出前授業(模擬授業)を行う
6	幼稚園・保育所・認定こども園の通常の教育・保育活動に児童が参加する
7	幼稚園・保育所・認定こども園の運動会、音楽会、お祭り等の行事に児童が参加する
8	連携訓練・防災訓練を合同で行う
9	その他(特色ある取組みがあれば、具体的に記入ください)
10	特に実施していません

問1-2 今後、次のような、子どもを中心とした交流活動を実施したいと考えますか。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。

注)平成27年度に実施した活動で、今後も引き続き実施したいものにも○をつけてください。

1	小学校の授業に園児を招いたり、校庭や校舎で一緒に遊ぶ
2	小学校の運動会、音楽会、お祭り等の行事に園児を招く
3	小学校で給食を一緒に食べる
4	小学校が主催する交流会等に幼稚園・保育所・認定こども園を招く
5	幼稚園・保育所・認定こども園で出前授業(模擬授業)を行う
6	幼稚園・保育所・認定こども園の通常の教育・保育活動に児童が参加する
7	幼稚園・保育所・認定こども園の運動会、音楽会、お祭り等の行事に児童が参加する
8	連携訓練・防災訓練を合同で行う
9	その他()
10	特に実施したい活動はない

次ページに続きます

問1-3 問1-1で○をつけた方のみお答えください。

交流活動を実施したことにより、どのような成果、効果があったと考えますか。

次の各項目につき、A~Dの当てはまるもの1つに○をつけてください。

※A、Bに当てはまる、/Bある程度当てはまる、C、あまり当てはまらない、D、当てはまらない

子どもを中心とした交流活動による成果・効果	A	B	C	D
1 児童の生長者(お兄さん・お姉さん)としての自覚や意識が高まった				
2 幼稚園・保育所・認定こども園の教職員とのつながりが深まった(つながりが深まった)				
3 幼稚園・保育所・認定こども園の生活や教育・保育に対する学校教職員の理解が深まった				
4 幼稚園・保育所・認定こども園の教職員が小学校に期待していることが分かった				
5 幼児期の教育と小学校教育とのつながりに対する学校教職員の理解が深まった				
6 幼児期の教育と小学校教育との接続を意識した教育課程やカリキュラムの改善につながった				
その他、成果・効果があれば具体的に記入ください				

問1-4 子どもを中心とした交流活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。

次の各項目につき、A~Dの当てはまるもの1つに○をつけてください。

※A、Bに当てはまる、/Bある程度当てはまる、C、あまり当てはまらない、D、当てはまらない

子どもを中心とした交流活動における課題や障壁	A	B	C	D
1 距離に園(施設)がない(距離が遠い)				
2 複数の園(施設)の空席児が入学するため、すべての園(施設)と交流できない				
3 多忙で交流活動の準備や総務の負担が重たい				
4 園(施設)と日程(繁忙期や準備期)が合わない				
5 交流活動の必要性について学校内の共通理解を得るのが難しい				
6 学校内で、交流活動の担当者が明確でない				
7 どのような交流活動をすればよいか分らない				
8 交流活動が単年度で途切れたり、車費で終わってしまう				
9 学校教職員の人事異動で関係が途切れてしまう				
10 園(施設)の教職員と交流できる関係が築けていない				
その他、課題や障壁となることがあれば具体的に記入ください				

問1-5 子どもを中心とした交流活動を中心となって行う担当者はおなですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1 校長	4 1年生の学級担任
2 教頭	5 その他()
3 教務主任	6 特に決まっていない

次ページに続きます

2 調査票 (小学校調査)

Ⅰ 要録の活用について

問2-1 平成27年度、全ての幼稚園・保育所・認定こども園から要録の送付を受けましたか。

当てはまる番号1に○をつけてください。

1	全ての園(施設)から送付を受けた	2	一部の園(施設)からは送付を受けていない
---	------------------	---	----------------------

問2-2 平成27年度に送付を受けた要録を、誰が読みましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	校長	4	1年生の学級担任
2	教頭	5	その他 ()
3	教務主任	6	特に決まっていない

問2-3 要録をどのように活用していますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	園(施設)における児童の育ちの全体像を把握する
2	児童の心身の健康状態など、特に留意すべきことを把握する
3	園(施設)での教育・保育で重視されてきた点を把握して、今後の指導の参考にする
4	その他 ()

次ページに続きます

Ⅱ 幼稚園・保育所・認定こども園との教職員同士の連携活動について

問3-1 平成27年度、次のような、幼稚園・保育所・認定こども園との教職員同士の連携活動を実施しましたか。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1	子どもを中心とした交流活動の事前打合せ
2	子どもを中心とした交流活動の振り返り(事後打合せ)
3	小学校の授業や活動の見学に園(施設)の教職員を招く
4	園(施設)の教育・保育活動を見学する
5	園(施設)の教職員と合同の研修会を行う
6	幼児期の教育からの接続を円滑にするための教育課程やカリキュラム等について意見交換を行う
7	小学校を中心として、学区内の幼稚園・保育所・認定こども園との連携組織を設置する
8	その他(特色ある取組みがあれば、具体的に記入ください。)
9	特に実施していない

問3-2 今後、次のような、幼稚園・保育所・認定こども園との教職員同士の連携活動を実施したいと考えますか。

当てはまる番号すべてに○をつけてください。

※平成27年度に実施した活動で、今後も引き続き実施したいものにも○をつけてください。

1	子どもを中心とした交流活動の事前打合せ
2	子どもを中心とした交流活動の振り返り(事後打合せ)
3	小学校の授業や活動の見学に園(施設)の教職員を招く
4	園(施設)の教育・保育活動を見学する
5	園(施設)の教職員と合同の研修会を行う
6	幼児期の教育からの接続を円滑にするための教育課程やカリキュラム等について意見交換を行う
7	小学校を中心として、学区内の幼稚園・保育所・認定こども園との連携組織を設置する
8	その他 ()
9	特に実施したい活動はない

問3-3 問3-1で1～8に○をつけた5つのみお答えください。

教職員同士の連携活動を実施したことにより、どのような成果・効果があったと考えますか。

次の各項目につき、A～Dの当てはまるものを1つに○をつけてください。

※A:大いに当てはまる、B:ある程度当てはまる、C:あまり当てはまらない、D:当てはまらない

	教職員同士の連携活動による成果・効果	A	B	C	D
1	園(施設)の教職員とのつながりができた(つながりが深まった)				
2	園(施設)の職員が小学校に期待していることが分かった				
3	園(施設)での教育・保育に対する学校教職員の理解が深まった				
4	幼児期の教育と小学校教育とのつながりに対する学校教職員の理解が深まった				
5	小学校教育の内容や考え方を園(施設)の教職員に伝えることができた				
6	幼児期の教育からの接続を円滑にするための教育課程やカリキュラムの取組につながった				
	その他、成果・効果があれば具体的に記入ください				

次ページに続きます

問3-4 教職員同士の連携活動の実施に当たり、課題や障壁となっていることはありますか。次の各項目につき、A～Dの当てはまるもの1つに○をつけてください。

※A、それに当てはまる。B、ある程度当てはまる。C、あまり当てはまらない。D、当てはまらない

教職員同士の連携活動における課題や障壁		A	B	C	D
1	複数の園(施設)の卒園児が入学するため、オプでの園(施設)と連携できない				
2	多忙で連携活動の準備や参加の時間が取れない				
3	園(施設)と日程(参加時期や時間帯)が合わない				
4	連携活動の必要性について校内の共通理解を得るのが難しい				
5	持ち場で、連携活動の担当が明確でない				
6	どのような連携活動をすればよいかわからない				
7	連携活動が単年度で途切れたり、単発で終わってしまふ				
8	学校教職員の人事異動で関係が途切れてしまふ				
9	園(施設)の教職員と交流できる関係が築けていない				
その他、課題や障壁とすることがあれば具体的に記入ください					

問3-5 教職員同士の連携活動を中心として行う担当者などはなですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1	校長		4	1年生の学級担任	
2	教頭		5	その他 ()	
3	教務主任		6	特に決まっていない	

IV 幼児期の教育からの円滑な接続に向けた取組みについて

問4-1 平成28年4月時点で、1年生の学年全体として、入学した児童の様子で課題と感じたことはありますか。

次の各項目につき、A～Dの当てはまるもの1つに○をつけてください。

※A、課題だと感じた。B、やや課題だと感じた。C、あまり課題だと感じなかった。D、課題だと感じなかった

平成28年度入学児童の様子		A	B	C	D
1	学校生活を楽しみ、喜んで登校すること				
2	心身ともに健康で、活発に遊ぶこと				
3	トイレ、着替え、靴の履き替えなど、基本的な生活習慣が身に付いていること				
4	友だちと遊ぶことが、仲良く協力して遊ぶこと				
5	教職員の指示に従ったり、ルールを守ること				
6	落ち着いて座に座り、教職員の話を最後まで聞くこと				
7	自分の思いや考えをだてらや教職員に言葉で伝えること				
8	自分の持ち物やものをきちんと管理・整理すること				
9	好き嫌いなく、喜んで給食を食べること				
10	教壇・図形、文字への興味・関心や感覚を特ら、活用すること				
11	自然や動植物に対して興味・関心を特ら、大切にすること				
12	発達段階に相応しい運動機能が身に付いていること				
その他、感じていることがあれば具体的に記入ください					

問4-2 親に1年生の進型は、幼児期の教育からの接続を円滑にするために意識的に実践した取組みはありますか。当てはまる番号オ～エに○をつけてください。

1	幼児期に親しんでいた活動を振り返り入れる → ○を付けた方は、具体的な内容を記入ください	
2	分かりやすい表示、板書、安心できる空間づくりなど、環境の構成を工夫している → ○を付けた方は、具体的な内容を記入ください	
3	時間割を短めにシジュール化している → ○を付けた方は、具体的な内容を記入ください	
4	生活科等において、各科的・関連的な指導を取り入れている → ○を付けた方は、具体的な内容を記入ください	
5	幼児期の教育について研修等を行い、理解を深めている → ○を付けた方は、具体的な内容を記入ください	
6	スタートカードやシジュールを作成・実践している → ○を付けた方は、具体的な内容を記入ください	
7	その他(特色ある取組があれば、具体的に記入ください)	
8	特に意識的に実践していることはない	

問4-3 アプローチチャリキョウムについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

1	アプローチチャリキョウムについて、研修等を行い、スタートカードやシジュールの編成等に生かしている	
2	アプローチチャリキョウムに関する資料を載せたことがある	
3	アプローチチャリキョウムに関する資料を載せたことはないが、言葉や意味は知っている	
4	アプローチチャリキョウムという言葉や意味をよ知らない	

<アプローチチャリキョウムとは>

幼児期における発達や学びを小学校での生活や学習に継続するために、幼児期の教育・保育が終了する前の「接続期(概ね卒業前の後半)に、幼稚園・保育所・認定こども園で実施するカリキュラムです。

次ページに続きます

V 小学校入学を控えた園児の家庭や保護者への支援や啓発について

問5-1 幼稚園・保育所・認定こども園の年長児の保護者に対し、入学に対する不安を和らげたり、入学に向けた準備を支援するためにやっていることはありますか。

当てはまる番号すべてに○をつけて下さい。

1	小学校で保護者に対する説明会等を開催する	
2	園(施設)に行つて説明会等を開催する	
3	小学校入学に向けた家庭での留意事項などを記載したお便りを作成し、園(施設)に配布してもらう	
4	小学校のお便りなどを園(施設)内に掲示してもらう	
5	その他(特色ある取組みがあれば、具体的に記入ください。)	
6	特に実施していない	

問5-2 特に1年生前半に、保護者に対し、小学校での生活や学習に対する理解を促すためにやっていることはありますか。

当てはまる番号すべてに○をつけて下さい。

1	小学校での生活や学習の内容、児童の様子等をお便りなどで知らせている	
2	小学校での生活や学習の内容、児童の様子等を保護者会などで知らせている	
3	年度初めの月1回(4月中旬)に、授業参観や保護者懇談会を開催している	
4	保護者と個別に話したり、相談に応じて連絡を取っている	
5	その他(特色ある取組みがあれば、具体的に記入ください。)	
6	特に実施していない	

VI 幼稚園・保育所・認定こども園との連携・接続に関する意見

問6-1 幼稚園・保育所・認定こども園との連携・接続についてご意見等がございましたら、ご自由に記入ください。

～ ご協力ありがとうございました ～

3 千葉市幼保小連携・接続検討会議 委員名簿

平成29年3月

<委員>

(敬称略)

	氏名	所属	職名	備考
1	杉本 卓美	梅乃園幼稚園	園長	私立幼稚園
2	小針 千尋	松ヶ丘幼稚園	副園長	私立幼稚園
3	松浦 伸治	すずらん保育園	園長	民間保育園
4	宇野 直樹	まどか保育園	園長	民間保育園
5	細野 陽子	幕張第二保育所	所長	市立保育所
6	石渡 真由美	天台保育所	所長	市立保育所
7	小坂 裕皇	都小学校	校長	市立小学校
8	大塚 由美子	幕張小学校	校長	市立小学校
9	福本 順	指導課	課長	千葉市教育委員会
10	増澤 保明	教育センター	所長	千葉市教育委員会
11	鈴木 規宏	幼保支援課	担当課長	千葉市こども未来局
12	五藤 里子	幼保運営課	担当課長	千葉市こども未来局

<助言者>

	氏名	所属	職名	備考
1	佐藤 慎二	植草学園短期大学福祉学科	教授	有識者
2	松壽 洋子	千葉大学教育学部	教授	有識者

千葉市幼保小連携・接続実態調査 結果報告書

平成 29 年 3 月発行

企 画 千葉市幼保小連携・接続検討会議

編 集 千葉市こども未来局こども未来部幼保支援課

住 所 〒260-8722 千葉市中央区千葉港 2-1

千葉中央コミュニティセンター9 階

連絡先 TEL : 043-245-5100 (直通) Fax : 043-245-5629

Meil : shien.CFC@city.chiba.lg.jp